

# Yawaragi

Gakushuin Women's College

VOL.20  
2017年度



## 学習院女子大学

学習院女子大学 事務統括部

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1

TEL 03-3203-1906 FAX 03-3203-8373

URL <http://www.gwc.gakushuin.ac.jp>

2018年3月

2018年3月



新学長からの挨拶

学生の皆さん、父母保証人の皆さん、本年度から学長となりました神田典城と申します。石澤前学長の任期満了に伴いまして、後任として選出されました。写真も掲載しておりますのでどうぞお見知りおきください。



学習院女子大学長 神田典城

# 新学長からの挨拶



学生時代の皆さん、父母保証人の皆さん、本年度から学長となりました神田典城と申します。石澤前学長の任期満了に伴いまして、後任として選出されました。写真も掲載しておりますのでどうぞお見知りおきください。

学生時代の皆さん、父母保証人の皆さん、本年度から学長となりました神田典城と申します。石澤前学長の任期満了に伴いまして、後任として選出されました。写真も掲載しておりますのでどうぞお見知りおきください。

これまで日本文化学科所属の教員として勤めてまいりましたが、多くの方にとっては「Kanda who?」であろうと思われるので、自己紹介傍々、私と学習院の縁などについていささか記しておきたいと思えます。

私が学習院との本格的な関わりは、1969（昭和44）年に始まります。いま「本格的」としたのはわけがあります。私の自宅が戸山町にあって、つまり学習院の戸山キャンパスの目と鼻の先で育ったので、幼少の時から学習院という学校の存在は身近なものでした。例えば、小学生のころ、その当時キャンパスの裏側の囲いは有刺鉄線でしたが、それがどこどこ大きくあいていて、そこから学校の敷地に入り込んで、そこから学校の敷地に入り込んで守衛さんに追いかけられた友達もいたりしました。長じて大学受験のころ、女子部の運動会の際の生徒の歓声のうるささに閉口して、喫茶店に逃げ出したなんていうこともありました。

それがどのような縁によるのでしょうか、前記の年（もう記憶されている方も少なくなったと思いますが、学生運動のピーク「東大安田講堂落城」事件で東大の受験が中止になったという特筆すべき年です）に学習院大学の国文学科に入学することとなりました。当時はまだデジタル化されていないので、学籍番号の始まりは「44国」でした。

その後大学院へ進んで日本神話を中心に研究していましたが、新しい文学部棟（目白キャンパスの北2号館）建設とともに助手に採用され、その任期満了の後、行くところもなく迷子になっていたところを女子短大の教員として採用されました。戸山から目白へ通い、そしてまた戸山へ舞い戻ってきたことになりました。口の悪い先輩によると「神田さんの一生は半径1キロの中」だそうです。その後短大は4年制女子大に改組し、今日に至り、それも今年で20年を迎えるということとなりました。

さてご退屈な自己紹介はこれぐらいにして、学長とは言っても学生全体にメッセージを発する場が意外と少ないので、この誌面をお借りして、日ごろ気になっていることを記しておきたいと思えます。

本学のある戸山キャンパスでは、守衛さんが出入りの学生さんに「きげんよう」と声をかけています。学生さんも当初は戸惑うようですが、やがて挨拶文などに平気です。学生さんも当初は戸惑うようですが、やがて挨拶文などに平気です。学生さんも当初は戸惑うようですが、やがて挨拶文などに平気です。

本学は「文化交流」を謳い、二つの学科は「コミュニケーション」の語を掲げています。交流・コミュニケーションとは、投げかけられた言葉に対して応えるところから始まるのではないのでしょうか。私は守衛さんの声かけに無反応に通り過ぎて行く学生の姿を目にするたびに寒々しい気分が襲われます。もちろん守衛さんただ仕事として声かけをしているのかもしれない。学生さんも声を出さずとも「人間」の心持を。文化交流を学ぶ場の出入りのこと、ここで交流が成立していない。このことの意味をよくよく考えてみてください。

# Yawaragi

学習院女子大学だより

やわらぎ

第20号

2017年度

## Contents

- P. 3 新学長からの挨拶
- P. 4 新副学長挨拶／新学部長挨拶
- P. 5 総合型出張授業
- P. 6 特集：世界の中の日本 世界で活躍できる人材を育てるための日本の英語教育改革
- P. 8 2017年度 国際協力研修
- P. 9 ITCL『十二夜』公演を終えて
- P. 10 伝統文化講座 茶道を通じた国際交流
- P. 12 学習院女子大学学術シンポジウム
- P. 13 国際学研究所だより
- P. 14 学習院女子大学学会より
- P. 16 本学で開催された学会・研究会／2017年度客員研究員受入一覧
- P. 17 味わい教育 五感と心で感性をはぐくむ食育
- P. 18 授業紹介 国際コミュニケーション演習H
- P. 19 授業紹介 海外同時授業
- P. 20 本学で開催された特別授業
- P. 22 新任専任教員紹介
- P. 24 専任教員著書の紹介
- P. 25 図書館からのお知らせ
- P. 26 留学生報告
- P. 29 留学生行事実施報告
- P. 30 留学情報
- P. 31 輔仁会団体紹介
- P. 32 雅祭を終えて
- P. 33 「和祭」を振り返って
- P. 34 学習院女子大学の就職力
- P. 35 内定者からの声
- P. 36 キャリア支援部より
- P. 37 学習院父母会の近況報告
- P. 38 草上会からのお知らせ
- P. 40 学習院女子大学データ
- P. 41 平成30年度学年暦
- P. 42 Topics





# 学習院女子大学の「リベラルアーツ教育」の魅力をいかに伝えるか？

～『総合型出張授業』の取り組み～

副学長 国際コミュニケーション学科 教授 莊林 幹太郎

本学は、1、2年生の間に様々な分野に関する多くの基礎的な科目を履修したのち、その過程で学生自らが「発見した」自身の学問的関心に応じて、ゼミを選択し専門的な講義を3、4年生にわたり受講する、いわゆる「リベラルアーツ型」の教育を基本に置いています。平成30年度入学生からは、3年生からの専門分野のイメージをより明確にするためのコース登録制度が日本文化学科及び国際コミュニケーション学科に導入されますが、1、2年生の間に「多様な分野に出会う」ことを専門教育の前に位置づける方針に変更はありません。

このような本学の教育の特徴を高校生にも理解してもらうための取り組みの一環として、平成29年度から「総合型」の出張授業を開始しました。具体的には、一つの事象を異なる専門分野の分析視点で「解釈」することにより、当該事象を総合的に把握することの「知的興奮」を感じてもらうことを想定するものです。と同時に、専門分野によって事象のとらえ方に大きな違いがあること、だからこそ多様な分

野に出会うことの重要性を理解してもらおうとするものです。60分から90分程度の講義の中で、2ないしは3分野の教員が共通の事象についてそれぞれの専門分野の「特徴的」な視点に基づき解釈し、それらの視点を「総合化」することを目指す授業です。

初年度となった平成29年度は、4高校で試行的に総合型出張授業を実施しました。それぞれのテーマ（解釈すべき事象）と構成分野（視点）は下表の通りです。合計で約450人の高校生の皆さんが聴講し、多くの肯定的な感想をいただきました。また、高校の先生方からも、これまでの出張授業にはない新鮮な取り組みとして評価するとの声を寄せていただきました。今後は、4高校での試行を踏まえてさらに多様な分野の組み合わせを、様々な「事象」を対象に企画していく予定です。それにより、本学の教育の特徴を多くの高校生の皆さんに理解してもらおうとともに、本学の高大連携の重要な取り組みの一つとなることを期待しています。

## 総合型出張授業の試行において対象としたテーマとその内容

テーマ1

東京の『景色』から見えるもの

視点(専門分野)	内容
視点1:文化遺産学・建築学(ウーゴ・ミズコ准教授)	国会議事堂の形が表現するもの
視点2:農業経済学(莊林幹太郎教授)	「忠犬ハチ公像」から考える日本の農業・食料

テーマ2

『景観』から見えるもの

視点(専門分野)	内容
視点1:文化史学(今橋理子教授)	不忍池図からみる現実と虚構
視点2:建築学(ウーゴ・ミズコ准教授)	国会議事堂の「形」が表現するもの
視点3:農業経済学(莊林幹太郎教授)	水田の景観を金銭換算する意味

テーマ3

オリンピックから考える

解釈する「視点」	内容
視点1:スポーツ人類学(荒井啓子教授)	異文化理解と近代オリンピック～その葛藤と共存性を考える～
視点2:現代美術史(清水敏男教授)	オリンピックと芸術
視点3:農業経済学(莊林幹太郎教授)	オリンピック村の食料調達基準から「持続性」を考える

テーマ4

日本語の感覚を表す擬声語と擬態語—英語話者はどれくらいわかるのか—

解釈する「視点」	内容
視点1:言語学・応用日本語学(佐藤琢三教授)	擬声語・擬態語～日本語研究の観点から～
視点2:応用言語学・英語教育(萱忠義准教授)	擬声語・擬態語～英語研究の観点から～

## 挨拶 新副学長

莊林 幹太郎

平成29年4月に副学長に就任しました。非力ではありますが、神田学長を全力で補佐してまいりたいと思っております。

神田学長がさまざまな場面で強調するのが、学生に「多様な分野に出会って欲しい」ということです。私自身もその思いを自分自身の人生の経験に照らし合わせながら強く共有しています。かつて、OECD(経済協力開発機構)で農業の有する「多面的機能」を理由とした保護貿易政策が正当化されるか否か、正当化される場合にどのような政策が適切か、などの政策議論を担当したことがあります。多くの先進国にとって農産物貿易は極めてセンシティブな事項であることから、この議論は様々な対立構造を内包していました。その



際、議論の基本的な枠組みは「経済学」なのですが、経済学以外の知識を必要とする場面に何度も直面しました。例えば、各国の農村コミュニティの重要性を把握するための社会学的な知識があれば、もう少し奥行きのある政策議論ができたのではないかと、農産物貿易の主要なアクターであるEU(欧州連合)の歴史をもう少し体系的に把握していたら、より適切な交渉

ができたのではないかと、そのような経験をjするたびに、学生時代に「多様な分野」に十分に出会っていなかったことを深く後悔した記憶があります。副学長の仕事を通じて、学生が同じ後悔をしないような貢献が少しでもできればと考えています。

## 挨拶 新学部長

時安 邦治

「人文学の危機」が叫ばれるようになってから、もう随分年月が経ちます。今から思えば、「ポストモダン」と呼ばれた思潮など、人文学には危機でさえなかったのかもかもしれません。少なくとも「ポストモダン」について考察することで人文学の仕事が減ることはありませんでした。しかし現在、特に国立大学などでは人文学関連のポストが削減され、あるいは研究費が削減され、以前では考えられないほど人文学の研究・教育環境は悪化しつつあります。

人文学は何の役に立つのか。もちろん「人文学に有用性を求める発想自体がくだらない」とお高くとまっていられる時代ではありません。もはや「人格の陶冶」などのお題目では人々を煙に巻くことも

できません。国家予算を振り分けよう以上(私立大学でも補助金の形で国家予算が投入されています)、人文学の有用性、少なくとも必要性は説明できなければなりません。平成29年度より神田典城学長が就任し、本学は「リベラル・アーツ」の大学であることを積極的にPRしています。私たちは本学の教育を「コラボレートする知性」と特徴づけています。それは、様々な分野の人々を結びつけ、社会の中に新しい知識や価値を創造していく知性です。私たちは、これまで本学が培ってきたものを生かしながら、「コラボレートする知性」を学生に教授し育んでいくチャレンジを始めています。



私は一人の人文学者(社会学・社会思想)として、そうしたチャレンジの一端を担いたいと思います。これからの学習院女子大学国際文化交流学部にご期待ください。





# 世界中の日本

～世界で活躍できる人材を育てるための日本の英語教育改革

特集

英語コミュニケーション学科 准教授 萱 忠 義

## 日本の英語教育の変遷と改革の必要性

世界の英語教育の流れを概観すると、言語教育における「コミュニケーション能力」の重要性について議論され始めたのは1970年代のことです。まず、社会言語学者であるハイムズなどがその重要性を説き、1980年代に入りカナリリとスウェインにより、「コミュニケーション能力の構成要素が明確に定義されました。その後、「コミュニケーション能力の向上をその目標に掲げる」「コミュニケーション」という教授法が発展していきました。しかし、日本ではこのような世界的な動向

に反し、その後もコミュニケーション能力に重きを置かず、文法を教えることや母語に翻訳することを中心とする「文法訳読法」や、音声や言語構造を機械的に練習するという「オーディオリンガル・メソッド」などが主な教授法として長く採用されてきました。残念ながらこの状況は、1989年に改定された学習指導要領において「コミュニケーション能力の必要性が明記された後も、改善されませんでした。

しかしながら、21世紀に入り、ようやく文部科学省は『英語が使える日本人』の育成のための行動計画（2003年）を打ち出し、グローバル化が急速に進展する日本で、「コミュニケーション能力を重視した英語教育のより具体的な実践が必要であることを明示しました。これ以降、文部科学省は



グローバル化が求められる現在、未来を担う子どもたちには英語が必須のコミュニケーション・ツールであることは誰もが認めるところででしょう。しかしながら、以前と比べてなぜ最近、「英語教育」の話題をメディアなどでよく耳にするのでしょうか。今回は、英語教育の変遷をたどりながら、現在行われている日本の英語教育改革の内容についてお話をしたいと思います。

## 現在進行中である日本の英語教育改革

次に、前述の実施計画によって学習指導要領にどのような変化がもたらされるのかを概観し、どのように大学入試が改革されるのかを説明します。まず、2017年3月に公示された小学校の学習指導要領では、現在第5～6学年で行われている「外国語活動」の対象学年が引き下げられ、第3～4学年で必修化されます（年間35単位時間）。コミュニケーション能力を意識し、「聞くこと」と「話すこと（やりとり）」と「話すこと（発表）」を通じて英語に親しませ、学習への動機づけを促すことを目的としています。そして、第5～6学年では英語が「教科化」されさ



らに「読むこと」と「書くこと」が加わり、初歩的な英語運用能力を養うことを目指します（年間70単位時間）。指導語彙数に関しては、小学校卒業までの4年間で、600～700語程度の単語を指導することになります。この計画は2018年から移行期間を設けて実施され、2020年には全面実施される予定です。

増加することも挙げられます。実施時期については、2018年から移行期間を設け、2021年には全面実施されることになっています。

同時期に公示された中学校の学習指導要領でも、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の4技能5領域に焦点が当てられています。身近な話題について理解し、簡単な情報交換や表現ができるようにすることを目標としており、小学校と同様に「コミュニケーション能力を培う目標設定がなされています。また、現行の学習指導要領からの大きな変更点として、授業を英語で行うことや、指導語彙数が1600～1800語（現行では1200語）に

本原稿執筆時（2018年1月）にはまだ公示されていませんが、中央教育審議会のまとめ（素案）を見ると、「コミュニケーション能力の養成が目標とされていることが分かります。英語4技能を統合的に扱い、発表、討論、議論、交渉などを行い、言語活動を高度化する。ことを目指しています。指導語彙数は1800～2500語（現行では1800語）に増加され、実施時期については2022年より実施予定とされています。

このように学習指導要領を見ると、今まで以上にコミュニケーション能力が目標の中心に置かれ、言語活動が高度化し、指導語彙数も増えていることが分

かります。さらに文部科学省は、「コミュニケーション重視の英語教育改革の切り札として、大学入試改革も計画しているのです。大学入試センター試験を廃止し、2020年度からはそれに代わる大学入学共通テストと4技能の民間試験（TEAP、英検、TOEFL、IELTSなど）を併用し、2024年度からは4技能の民間試験に全面移行する予定です。これは大学入試において、近い将来、英語4技能試験によってコミュニケーション能力が問われる時代が来ることを意味するのです。



グローバル化の中にある現在の日本は、このように英語教育改革を行い、未来の子どもたちが、世界共通の言語である英語を介して、グローバルな舞台で対等にコミュニケーションをできる能力を育成することを真剣に考えているのです。今の子どもたちが、英語を駆使して堂々と世界で活躍する日も遠くないことでしょう。





## ITCL『十二夜』公演を終えて

国際コミュニケーション学科 教授 古庄 信

2017年5月20日(土)、本学やわらぎホールにて毎年恒例行事となった英国劇団ITCLによるシェイクスピア劇公演が行われました。本学の国際文化交流事業のひとつとして2007年の『動物農場』(Animal Farm)から始まり、11年目を迎えた今回はシェイクスピアの傑作喜劇『十二夜』(Twelfth Night)。前年の2016年『嵐』(The Tempest)で早10年、本学公演の担当の私もそろそろ終わりにしようかと思った矢先、次年度公演が『十二夜』と聞いた途端、止められなくなりました。なぜか?それはついに『十二夜』だからでした。「ついに」と申し上げたのはこの作品がITCLでは初公演ということもありますが、私が学生時代に会い、芝居に興じた最初のシェイクスピア作品、という個人的な理由もあり、また映画『恋におちたシェイクスピア』でも、一見『ロミオ…』はいかにして書かれたか、が主筋のようで実は、最後の落ちでシェイクスピアが恋に落ちて『十二夜』ができた!(もちろん架空のお話)ともっていくあたり、脚本を書いたトム・ストップードなど世のシェイクスピアファンも数あるシェイクスピア作品の中でいかに『十二夜』が好きか、ということを物語っているほどの作品だからなのです。

さて今回のITCL公演では、いつものように役者は6人だけでした。しかし台本では女性の役は主人公の

ヴァイオラを入れて3人は必要なのに、ヴァイオラとオリヴィア以外は男優のみ。一体だれがオリヴィアの侍女マライアを演じるのかと思っていたら、何とヴァイオラが恋に落ちる主人オーシーノ公爵役の男優が変わり身の早さでこの役を。しかも「男が演じる女の妖艶さ」を十分に見せる怪演!俳優たちの役による振れ幅の大きさはいつもながら、みごとに私たち観客の期待を裏切る演出で「人が人を好きになるとは、恋をするとは?」というテーマを今さらながらに見せつけた舞台でした。

こんな素晴らしいシェイクスピア上演を、日本にいながらにして原語のまま鑑賞できる私たちは本当に幸運です。「でも英語は苦手」という方のためには「字幕」という素晴らしい日本の翻訳文化のサポートがあります。「言ってることがわからない」なんてぼやく前に舞台左右の字幕にちらりと目をやりながら楽しんでください。役者たちの鍛え抜かれた声と演技に会場は笑いの渦に包まれていました。さらに終演後、スタッフの学生たちが役者らとともに楽しむ「国際交流」というもうひとつの舞台も展開されました。2018年のITCLジャパン・ツアー、そして本学公演で三度目となる演目は『ロミオとジュリエット』。公演日は5月12日(土)。乞うご期待!



## 2017年度 豊かなる開発途上国 ラオス&ルワンダ国際協力研修

国際コミュニケーション学科  
教授 伊藤 由紀子



2004年度から始まったラオス国際協力研修は今年で第18回目の実施となりました。のべ400名超の学習院女子大学生がこれまでラオスを訪れ、卒業生はラオスで働いたり、ラオス人の友人の結婚式、家族旅行でラオスを訪れたりしていま

す。10日にも満たないラオスでの滞在、何が彼女たちをあの国にひきつけるのでしょうか。ラオスは経済的には決して豊かな国ではなく、それまで何不自由なく生きてきた学生がラオスの農村でホームステイをする際、最初は戦々恐々としていました。蛇口から溢れ出る水もなければ、煌煌とともる電気もない。時にはトイレもなく、雨の時は足元は泥まみれです。雨、なんとも不便。

確かにラオスの村には日本の生活と比べ物にならないほどモノがありません。しかし、ないからこそ、村の老若男女が集い、団欒する場所ができています。そして、日々の他愛のない会話もされれば、悩み事を打ち明ける場所にもなります。もちろん、「お年寄り、体の不自由な人には席をゆずりましょう」とや、「公共の場所はきれいに使しましょう」というような標識はありません。しかし、



ホストファミリーと食卓を囲んで

目上の人間がいれば場所を譲ったり、少し待たせたり、小さな子どもがいれば助けたり、生活のルールを学び教える合っています。台所では、竈に火を入れるところから始まり、そのお母さんは大変かと思いきや、そうでもありません。子供たちが、とにかくよくお手伝いをするので、それも、言われてイヤイヤやっている雰囲気はまったくなく、和やかな団欒の光景がそこにもあります。

このようなラオスの空間がなんとも心地よく、「豊か」に学生は感じるそうです。2011年の東日本大震災以降、日本でも地域社会のつながりや絆の大切さが再認識されました。一般的に自宅と職場が離れ

た生活をする日本人がラオスの村のような交流をすることは難しいのかもしれない。しかしながら、まずは家族と、そして自分の生活圏外の人たちとも、意識的に関わり合い、気軽に助けてあげる、助けをもらうことができるようになりたいものです。

アジア、ヨーロッパ、アメリカでの海外研修に加え、本年度からルワンダ国際協力研修が始まりました。1994年、3か月間で100万人ものルワンダ人が殺されたジェノサイドから20余年、アフリカの奇跡と呼ばれるほど、着実に国の復興、発展を遂げています。千の丘の国と言われ日本の四国ほどの大きさのルワンダは、街にはゴミひとつ落ちていません。そしてジェンダーギャップ指数はなんと世界4位(日本は残念ながら昨年過去最低を更新し14位)です。同じ国際社会の土台の中で生きるルワンダの若者、女性が描く国づくりにおける彼らのコミットメント、夢、希望を聞き、日本社会の有り様を振り返ってみようと思っています。

何不自由ない生活ができていない、将来に希望が持てるかと学生に聞くと、なぜだか前向きな答えが返ってこないことが少なくありませんが、国際協力研修に参加すると、だいたいその見方に変化があるようです。

開発途上国、アフリカ、国際協力という冠がついた研修は、一般的にその国の課題に焦点をあてがちです(西欧諸国への研修の場合、国の文化遺産、自然、語学等がテーマなのに)。しかし、当たり前なことではあありませんが、どの国にも誇れる文化やその国らしい豊かさがあります。それぞれの国の豊かさから学ぶのがラオスとルワンダ研修のアプローチです。学習院女子大学在学中に多くの学生が参加されることを期待しています。



ラオスの村ではいつでも人が集っています



# 茶道を通じた国際交流

国際コミュニケーション学科 教授 畠山圭一

国際文化交流の女子リーダーの養成を目的とする日本唯一の大学である本学は、日本文化、文化交流、国際協力、比較文化、国際関係、地域研究などの分野における他に類を見ない数多くの教育・研究プログラムを有しています。そうした本学の教育・研究の特徴のひとつに日本の伝統文化に関する充実した教育内容があります。

茶道、華道、書道、香道、有職故実などの伝統文化について、それらの歴史・思想・作法に関する講義・演習を多数開講しているほか、国内外から多くの研究者・専門家・大学院生を受け入れるなど、日本の伝統文化に関する最も充実した高等教育機関といってもよいでしょう。

『伝統文化講座を通じた国際交流』事業は、そうした本学の特色とこれまでの研究・教育の実績を踏まえ、日本の伝統文化の紹介を通じて本学の海外広報活動並びに日本国の国際相互理解

促進に寄与するとの趣旨で昨年度から実施されているものです。



小堀家元によるお手前

具体的には、海外主要都市の文化機関や協定大学または海外主要大学に講師及び学生を派遣して日本の伝統文化に関する学術交流・国際ワークショップを実施する「海外派遣事業」と、協定留学生・外国人学生及び各国大使館の外交官・同家族を対象とした「英語による伝統文化講座」で構成されています。以下、平成29年度に実施された内容と成果について紹介します。

## 「海外派遣事業」

### ①ウィーン大学 伝統文化講座・茶道指導

平成29年9月26日14～18時、  
ウィーン大学構内(オーストリア・ウィーン)

— 文化講座

講義「妖怪とバジリスケンの攻略」  
展示・解説「絵巻・錦絵・ちりめん絵本  
に見る妖怪」

講師：徳田和夫(本学教授)

— 茶道講座

指導：小堀宗実(遠州茶道宗家家元、  
学習院父母会長)

実演：高橋宗満(遠州流茶道上席師範)  
補助：安井 遥(日本文化学科4年)  
吉村沙織(日本文化学科3年)

引率・渉外：  
畠山圭一(本学教授、図書館長)

1365年創立のドイツ語圏最古・最大の総合大学であるウィーン大学にて、同大学の前田昭雄・名誉教授(元上野学園大学学長)及び同大学東アジア研究所日本学科の協力により、徳田和夫・本学教授による文化講座と小堀宗実・遠州茶道宗家家元(学習院父母会長)の指導による茶道講座が実施されました。

徳田和夫教授による文化講座では、日本の伝統的説話とオーストリアの説話を比較した講義「妖怪とバジリス



ウィーン大学伝統文化講座の「展示・解説」



ウィーン大学伝統文化講座「茶事実演」

ケンの攻略」と展示・解説「絵巻・錦絵・ちりめん絵本に見る妖怪」が行われ、ウィーン大学の学生、教職員を含む約50名が受講しました。

続いて、小堀宗実・遠州茶道宗家十三世家元(学習院父母会長)による講義「KIREI SABI(綺麗さび)〜遠州流茶道の精神〜」と、高橋宗満・遠州流茶道上席師範による茶道の実技指導が行われ、約90名が受講しました。なお、本学から選抜派遣された2名の学生が茶事の補佐役を務めました。

また、第一部と第二部の幕間において、ウィーンを拠点に活躍中の2人の音楽家(前田朋子・ヴァイオリニスト、日野妙果氏・声楽家)により「日本の調べ」と題して歌曲演奏が行われました。

16名をお招きして、茶会と会食が、在オーストリア日本国大使公邸にて本学と同大使館の共催により催されました。茶会では、亭主を小堀宗実・遠州茶道宗家家元が、補助を派遣学生2名が務めました。

## 「英語による 伝統文化 講座(茶道)」

期間：①平成29年5月10日～7月12日  
(全10回)

参加学生：5名

②平成29年10月5日～12月7日  
(全10回)

参加学生：8名

— 指導：小堀宗実(遠州流茶道宗家)  
後藤宗典(遠州流茶道宗家)

昨年に引き続き、本学に在籍する外国人留学生、協定留学生、外国人研究員・研究生・大学院生と、在日外交団及び同家族を対象に、日本の伝統文化に対するより深い理解を促すための「英語による伝統文化講座(茶道)」が実施されました。

本学の外国人在籍者数は約70名。その多くが、本学の正規授業である「伝統文化演習」に強い関心を持っており、英語による伝統文化に関する講義・演習の必要が課題となっておりまし



春学期講師と受講生



春学期茶会



秋学期での模擬茶会

た。また、本学では、通常授業・国際シンポジウム・国際ワークショップなどを通じて世界各国の大公使館員との交流も恒常的に行われており、その一環として、本学の特色の一つである日本の伝統文化に関する教育・研究を通しての国際交流が模索されていきました。本講座はそうした課題に応えるためのものです。

ぶことから始まり、ほとんど茶道経験がなかった受講者も、講座終了までには一通りお茶をたてることもできるようになりました。最終回にはそれぞれ模擬茶会を催し、いつもと違った緊張感の中、おもてなしを体験する良い機会となりました。着物を着て所作をすることにもなれていない上、お茶のお手前をするのはとても難しかったようですが、茶道の楽しさの一部も理解してもらえたかと思えます。

この度の国際交流事業を機会に、小井沼紀芳大使のご厚意により、オーストリア政府及び主要文化機関の代表

- Sabine Haag (ウィーン美術史博物館館長)
- Christian Strasser (ウィーン・ミュージアム・クォーター館長)
- Gabriele Meon-Tschurtz (外務省アジア部長)
- Antonia Hoerscheimann (現代美術館19世紀・20世紀美術部長)



## 国際学研究所(GIIS)だより

国際学研究所長 日本文化学科 教授 徳田 和夫

ベリリ氏はとくに日本の女子学生に直接語りかけた。また対話したいと望まれ、ICRC駐日事務所は都内の女子大学での開催を図り、本学を選んでくださいました。有り難いことです。櫻井大三研究員が仲介の労を取られ、畠山圭一研究員、四方八重戸客員研究員にご助力をいただきました。なお経費は同事務所が負



当研究所は、本学の学部・大学院の教育理念の達成を図るために設けられた付属教育研究機関です。平成24年4月にオープンし、まもなく5年が経とうとしています。研究および活動分野は(1)国際文化交流、(2)国際問題、(3)比較文化、(4)アジア・太平洋研究、(5)外国における日本研究支援です。今年度は次のような催しをおこなうことができました。「国際問題」に関して、4月21日(金)に、赤十字国際委員会ICRC副総裁クリスティーヌ・ベリリ氏をお招きし、公開シンポジウム「国際社会で貢献する女性とは？」を開催しました。

「比較文化」ということでは、10月2日〜21日にわたって文化交流ギャラリーにて特別展示「ビジュアルな妖怪たち―絵巻・錦絵・ちりめん絵本に見る―」を催しました。日本の(妖怪文化)は、東アジアの古来のそれを保持し、現代ではサブカルチャー化し、欧米圏から注目されています。このころは妖精・怪物との比較研究も盛んとなっています。展示品の多くは個人蔵のものでしたが、本学図書館のかわいい、美しい

担してください、所員の柴田大輔氏、富田真美子氏には格別なご配慮を賜りました。詳しくは本誌の別掲記事をご覧ください。ただ、学生は、世界で活躍されるベリリ氏に接し、ICRCの活動を具体的に知り得て、本学に学ぶ喜びを感じたことでしょう。終了後、ベリリ氏のご希望にそって懇談会を開きました(互敬会館2階ラウンジ)。こちらも多くの学生が参加し、笑顔をたやみやすさ対応されるベリリ氏には感激いたしました。



「国際文化交流」外国における日本研究支援では、12月1日(金)にイブニング公演と講義「道成寺縁起絵解きの魅力」を、伝承文学研究会(東京例念)、一般社団法人昭和会館研究助成「伝承物語の東西比較」研究会の共催で持ちました。客員研究員の伊藤慎吾・式町真紀子氏(ともに本学非常勤講師)、同じく木村恵子氏兼て本学客員研究員)のご協力をいただきました。



ちりめん本の数々も並びました。会期中は内外の学生が見学を訪れ、外部の一般の方も団体で立ち寄りられました。また和祭とも重なりまして、ご父母、受験生の皆さまもお見えください。ギャラリートークを数回おこないました。開催にあたって、学芸員課程主任の清水敏男研究員、同担当副手の小山田江津子さんにご指導をいただきました。ちなみに私は、本学の「伝統文化講座を通じた文化交流」のプログラムにて、オーストリアのウィーン大学で「妖怪とバジリスケンの攻略」なる講演をいたしました。

なお、当研究所は諸活動について、専門の知見からアドバイスを賜る顧問を置いています。今年度から2年間、文化功労者の国際日本文化研究センター所長小松和彦氏をお迎えしております。



このたびは、院主の小野俊成師にご多忙の中、上京いただきました。その絵解き説法は闊達、まさに醍醐味。絵巻の鑑賞もできるよう223教室で催しましたが、補助席も埋まって熱気に満ちました。続いて木村氏に「龍蛇女への変容の意味」を、式町氏に「尽きせぬ執心―鉄輪の鬼、道成寺の蛇」をレクチャーしていただき、外国人研究者5名の方々の学術交流もできました。

## 学習院女子大学 学術シンポジウム「日本近代再考」

日本文化学科 教授 時安邦治

12月2日(土)に223教室において学術シンポジウム「日本近代再考」が開催されました。本シンポジウムは、本学が平成27年度より3年の計画で進めてきた「日本文化と国際文化交流」という国際共同研究プロジェクトの一環として、「日本文化のグローバルな意味」を社会学や歴史学の観点から問い直すことを意図して企画されました。

社会学は「近代とは何か」、「近代化とはいかなる過程なのか」をつねに問題化してきました。日本は西欧以外でもっとも早く近代化を開始した社会の一つですから、日本社会の近代化をどう考えるかもまた重要なテーマとなっています。そもそも「日本の」という修飾語によって捉えられる近代の特徴というものがあるのでしょうか。グローバル化する世界という理解が広まるなか、あらためて「日本近代とは何なのか」、「具体的に日本社会の何がどう変わったのか」、「近代化の日本的特性というものがあるのか」、「グローバル化する世界において日本近代はいかなる意味をもつのか」などが問われています。

当初のプログラムでは、ヴォルフガング・シュヴェントカー先生(大阪大学)、木村絵里子先生(本学非常勤講師)、玉利智子先生(ロンドン大学)、マイク・フェザーストン先生(ロンドン大学)の順で、4名の先生方がプレゼンテーションを行う予定でしたが、フェザーストン先生が事情により急遽参加できなくなり、プログラムを変更して、

司会の時安が問題意識の共有を目的として最初の発表を行いました。

時安の第1発表「忘却される近代―鶴橋・猪飼野から考える」では、在日コリアンを通して日本の近代史を眺め直し、近代のネーション形成と忘却の問題を論じ、不断に近代を問題化し、再考することの意義を述べました。第2発表「近代性のアンビバレンス―E.レーデラーと桑田熊蔵の日本研究 1910-1940」では、シュヴェントカー先生による、ドイツのエミル・レーデラーと日本の桑田熊蔵という2人の研究者・思想家についての報告でした。木村先生の第3発表は「〈外見〉の発見と日本近代」というタイトルで、芸妓の写真を題材として、写真という新しい技術が近代の日本人の「見る」経験をどのように変容させたかが分析されました。玉利先生の第4発表「消費文化、近代化、20世紀初頭の日本の百貨店」では、三越百貨店と流行会が取りあげられ、消費文化論の視座から当時の日本において百貨店が果たした機能が論じられました。フロアからも質問や意見を多数いただき、大変充実したシンポジウムとなりました。

なお、このシンポジウムの内容については近日中に『日本近代を問題化する』(仮題)という論文集として書籍化する計画です。4名の発表に加えて、フェザーストン先生の論考「近代を問うこと、文化を問題化すること」(仮題)も収録される予定です。





# 教育の平等保障と多様性

国際コミュニケーション学科 教授 大桃敏行



平等と多様性の問題は教育においても重要な検討課題です。平等の追求がしばしば多様性を損なうことにもなり、多様性の強調が不平等を広げることもあり得ます。しかし、どのような教育をどのように保障していくのかによって、平等と多様性の関係も異なってきます。本報告はアメリカ合衆国(以下、アメリカ)の教育政策を事例に、教育の平等保障の問題を多様性との関係において検討しようとするものであり、次の点を指摘しました。

第一に、アメリカでは歴史の負の遺産として不平等があり、連邦政府の教育政策ではその是正が大きな目的になってきたことです。教育の平等保障に向けて大規模な国庫補助を定めた最初の連邦法である初等中等教育法は、一九六〇年代に公民権運動を背景に制定され、同法の改正法である今日の連邦教育法においても、平等保障の理念が受け継がれています。人種の民族的に多様性を有する国家における、連邦政府による平等保障策の展開です。

第二に、この連邦教育政策において、一九九〇年代以降、特に二〇〇〇年代に入ってから成果が重視されるようになったことです。機会の平等保障にとどまらず、教育の格差是正のためには一定の成果をすべての子どもたちに保障しなければならぬとする考えによるものですが、そのために導入されたテスト政策やテストの結果に対する厳しいアカウンタビリテイ政策は、教育の目的を狭め教師の自律性を損なうものとして批判されることにもなりました。平等保障策が多様性や自律性を狭め、同じ成果をあげる競争へと自治や自由が枠づけられていくことへの批判です。

第三に、規制緩和と政策が公立学校の設置運営の多様化を導き、探究的で協働的な教育を目指す実践もみられることです。規制緩和と政策については公教育の市場化や民営化を進めるものとして批判もなされていますが、マイノリティや貧困家庭の子どもたちの多い学校で、探究的で協働的な学びや社会的情動的スキルの育成を重視し、学力保障でも成果をあげている学校があります。学校への自律性と成果に対する責任の付与という制度原理にもとづく、多様な背景をもつ子どもたちへの教育保障の取り組みです。

アメリカと日本は統治機構も人種民族構成も大きく異なりますが、成果重視の政策展開には共通性があり、また日本においても規制緩和・分権化政策のもとで自治体や学校で独自の実践がみられるようになりました。自治体や学校における個々の子ども文脈に即した実践が、認知的能力だけでなく非認知的能力の育成にどのような効果を有し、それが国レベルでの教育の平等保障にどうつながっていくのか。教育の平等保障と多様性の承認と関わって、日米の教育には同じような検討課題がみられます。



# 英語教育学における混合研究法の実践

英語コミュニケーション学科 准教授 田島 千裕



複雑化する現代の事象を包括的に捉えるために、量と質の両データを収集し、さらに両データを一つに統合する混合研究法(Mixed Methods Research: MMR)と呼ばれる研究手法があります。この手法は、ここ数十年で急速に発展を遂げてきた比較的新しい研究アプローチで、2000年以降は、研究デザインや研究手続き的な議論も開始されました。現在、心理学、社会学、教育学、経営学、コミュニケーション学、そして保健医療など、人間科学・社会科学の分野の研究者により活用され始めています。本報告の目的は、混合研究法を解説するもので、加えて、筆者が行った英語教育学の分野における混合研究の実践例を示すものでした。

混合研究法には、三つの基本

型研究デザインがあります。第一は「説明的順次デザイン」で、量的データ分析結果への理解を深めるために、被験者を絞り質的データを収集・分析する研究デザインです。第二の「探索的順次デザイン」は、比較的研究結果の蓄積が進んでいない分野において、質的データから研究の糸口を探した後に、量的データ収集・分析をして検証する研究デザインです。第三の「収斂的デザイン」は、量的データと質的データを同時に収集し比較することで、事象への解釈を深める研究デザインです。これらに加え近年関心が高まっているのは、「質的研究主導型混合研究」と呼ばれるもので、質的データを定量化することで研究結果を導く研究デザインです。

後半は、「収斂的デザイン」例と

して、筆者が行った混合型事例研究を報告しました。調査の被験者は、両足に障がいを持つ日本人の女子大学生で、大学一年次に英語学習を主目的としてカナダに留学した者でした。具体的な量的データ分析としては、英語コミュニケーションへの積極性、英語学習動機、言語不安を測定し、留学前と留学後の値を比較しました。結果、英語コミュニケーションへの積極性の伸びと言語不安の減少が示されました。質的データ分析結果としては、被験者及び留学先のホストマザーへのインタビュー回答から、独立心や自信の向上が認められました。つまり、障がいを持つ者が参加する留学の意義は、介助者である親元を離れて生活すること、独立心と自信に見られる社会

面・情緒面での成長でした。また、

英語圏文化で生活することにより、コミュニケーションへの積極性の伸びや言語不安の減少といった、英語コミュニケーションに対する意識の変容が見られ、情意面でも感受性を高めたことでした。混合研究法は、量的・質的研究者間でおきた研究アプローチの優位性をめぐる議論の結果誕生した、数字と言葉を用いるハイブリッドな研究手法です。単一メソッドによる研究だけでは知ることのできなかつた知識を構築できる可能性を秘めています。本報告では、「収斂的デザイン」を用いた混合型事例研究例を紹介し、量的・質的の両データを収集・統合することで、事象をより多面的に描写できる事を示しました。





# 味わい教育

～五感と心で感性をはぐくむ食育

環境教育センター所長 日本文化学科 教授 品川 明



すべての人に食への関心や意識を高めたい。その指導の在り方が問われています。これからの食育は、食を自覚的に意識する教育が必要と感じています。そして、そのために実践しているのが、五感をしっかり働かせて食べると新しい発見がある「ここで食べる 味わい教育」です。

## 正解を求めない、問いかけを大切に

食を味わうためには、「おいしい」「うまい」だけではなく五感をフル活用することが求められます。つまり、食べ物を食べたとき、どのような味や香り、食感、見た目をしているのか、さらにその命がいつどこで生まれ、どのように自分のもとに届いているのかを感じる。そのような想像力こそが、食への意識を高めると思います。

したがって、味わい教育で考える食育は答えがはじめから用意されたものでなく、自分自身で感じ取れる感性から発する応えに意味を感じています。情報が先行し、正解を与えたり、価値観を押しつけたりしてはいけなものです。一通りの答えを求めず、自分が決定したことは自信をもって応えるようにならないと教育として意味がないからです。食べ物は、自分で食べて、感じて、自覚ができます。自分の意識や感覚を使って表現力を身につけ、自分の心を信じる。味わい教育で実践していることはそうした力を身につけることです。

その意味で、私たちの指導で大事にしているのは「問いかける」ことです。Educationは本来「引き出す」という語源からきています。

引き出すためには、問いかけることが必要となります。「フードコンシャスネス」は食を意識する教育です。子ども達をはじめ多くの人に食を感じる力をつけるには、たとえば「喉を通るもので命が無いものは何だろう」と問いかけます。次に「生き物を殺したり傷つけずに食べられる食べ物は何だろう」と質問します。そうすると、食べ物にはみな命があると自分自身で把握できるようになります。多くの人が食べ物は当たり前にあるわけではないことに気づき、それが食と人と社会と地球の繋がりに意識を持つきっかけをもたらします。このようなコミュニケーションの積み重ねによって、食に対する自己決定した概念が形成されるのです。

多様な味わいに心身全体を使って、食べ物の背景を感じたり類推したりすると自然と探究心や表現力を身につけることができます。食は命であり、繋がりにあり、恵みです。まさに五感と心を使って味わうことが求められているのです。そうした想いを馳せることができる人は「ありがとう」「ごちそうさま」といった言葉が自然に出てきます。子どもとともに、指導者である大人も食べ物の価値について改めて気づいて、指導に活かしてほしいものです。

学習院女子大学発の味わい教育は通常の授業の中で、フードコンシャスネス論として多くの学生に開講されています。また、JMookでも「味わい教育～感じるとおいしくなる魔法」として、インターネット配信されました。さらに、多くの小・中・高校の授業の中で、保育士、栄養教諭、学校給食関係者、病院など、多くの教育、医療機関で活用されています。



## 本学で開催された学会・研究会

団体名	責任者	会名称・内容	日時	参加人数
古事記学会	神田 典城	研究会・研究発表会	9月16日 12月16日	各40名
伝承文学研究会	徳田 和夫	研究会	定例会9回	各20名
ルネサンス研究会	根占 献一	研究会	7月1日	約50名
日本ユダヤ学会	武井 彩佳	研究会	5月27日 7月22日 10月28日	約130名
祭祀研究会	乾 尚彦	研究会	4月23日 6月11日 7月16日 10月29日 2018年 2月18日	約80名
関東日本語談話会	佐藤 琢三	研究発表会	定例会6回	各30名
現代演劇研究会	内野 儀	研究会	5月13日	21名
史料データセッション研究会	木村 直恵	研究会	5月20日	10名
JACET教育問題研究会・外国語メディア教育学会関東支部	萱 忠義	研究発表会	11月4日	91名



## 2017年度 客員研究員受入一覧

氏名	所属	研究テーマ	受入部署	共同研究者	受入開始	受入終了
田畑 夏子	株式会社チカク顧問	米および飯の味わいに関する研究	日本文化学科	品川 明	1月1日	12月31日
木村 恵子	神戸女子大学教授	『道成寺縁起絵巻』絵解き説法研究並びにその絵解き説法から欧米人が受ける反応の研究	国際コミュニケーション学科	古庄 信	4月24日	3月31日
		伝承物語の東西比較	国際学研究所	徳田 和夫	4月1日	3月31日
式町 真紀子	本学非常勤講師	伝承物語の東西比較	国際学研究所	徳田 和夫	4月1日	3月31日
伊藤 慎吾	本学非常勤講師	伝承物語の東西比較	国際学研究所	徳田 和夫	4月1日	3月31日
四方 八重戸	本学非常勤講師 国際連合大学勤務	持続可能な開発目標(SDGs)を含む、ポスト2015年開発アジェンダに関して:持続可能な社会創りへのインパクトとステークホルダーの動向を中心に	国際学研究所	畠山 圭一	2016年 11月1日	10月31日
					11月1日	3月31日



## 授業紹介

# 大学のグローバル化とは ～7年目を迎えた海外同時授業

金城 亜紀 (国際コミュニケーション学科 教授)



学習院女子大学が、日本にいながらして海外と同時に受講できる授業を始めて今年で7年目になります。本学とカナダ・アルバータ州のレスブリッジ大学を、ICT技術を活用して中継する「海外同時授業:Japan, Asia and the World」は、日本時間午前9時(カナダ時間前日午後6時)に週2回開講されています。使用言語はもちろん英語です。

レスブリッジ大学は、学生数約8,700人、カナダの大学ランキング第3位(Primarily undergraduate category, Maclean's University Rankings 2017)の総合大学です。本プログラムは、本学とレスブリッジ大学が共同で開発し、ひとつの授業を両大学の教職員がチームで運営します。授業では、担当教員がそれぞれの専門分野(私は経営史、相棒のIan MacLachlan教授は地理学)を軸として、環太平洋地域の社会や国際関係を学際的に探究します。



本学には、国際衛星会議が開催できる水準の最新鋭の設備があります。講義資料とカナダの教室の様子は、教室に設置された4つのスクリーンを通して映し出されます。机の上に置かれたマイク

のスイッチを押すと自動的にカメラが発言者にズームインし、その音声と映像が相手国の教室に伝達されます。このような恵まれた環境のおかげで、両大学の学生がリアルタイムで臨場感あふれる授業を円滑に進めることができます。予習課題として毎回数十ページの英語のリーディング資料が課されます。そのために本学では、予習のための補講を設けるなど、サポート体制も万全。こうして、積極的に主張し議論を重ねることを通して真理に接近する醍醐味を、両大学の受講生は学びます。

本授業を通じ教員たちも学ぶことがたくさんあります。両大学の教員が共同で授業を開講する「チーム・ティーチング」方式は、お互いの講義技術を向上させます。多文化社会であるカナダは、学生の多様性に富んだバックグラウンドが強み。授業でも異なる意見を引き出すことが得意です。その一方で、私が好むケーススタディーは、カナダでは新鮮に映ったようです。両校の学生による要望や授業評価も共有し、授業に反映させます。閉じた空間になりがちな教室を開け放し、教授法についてもお互いに切磋琢磨することのメリットは大きいと思います。大学のグローバル化に本格的に取り組む意義は、こうした点にもありそうです。

このような先進的な授業を実施し進化させることができるのは、熱心な受講生に加え、その趣旨に賛同し、温かく献身的に応援してくださる両大学の教職員の方々のおかげです。記して感謝申し上げます。



(本稿は学習院TIMES (www.yomiuri.co.jp/adv/gakushuin) 「オビニオン」2017年10月23日掲載を一部修正したものです)。

## 授業紹介

# 国際コミュニケーション演習H

武井 彩佳 (国際コミュニケーション学科 准教授)



近年、世界中で難民や移民、民族的マイノリティに対する排外主義が問題とされています。日本でも、ヘイトスピーチが問題となってきました。この演習では、こうした世界情勢の中で世界各地の宗教的・民族的・人種的マイノリティの歴史を学び、現在の彼らを取り巻く政治・社会問題などについて考えます。歴史的な視野で現出する問題の根源を探り、その解決方法を考え、いかに共生社会を実現してゆか議論します。

ゼミでは自分で考え、自分の言葉で語ることを重視しています。反論するだけでなく、相手を説得できるような議論を展開するには、どのように理論を組み立てれば良いのか。常に自分の主張の根拠を明白に話すように伝えています。教員からいつも「自分の意見は?」と投げかけられるので、最初は質問に対して「分かりません」「特にコメントはありません」などと答えることが多かった学生も、回を重ねるごとに自分の意見を言うようになってゆきます。中には極めて弁の立つ学生さんもあり、舌を巻くこともあります。こうしたトレーニングは、例えば就職活動における自己PRに役

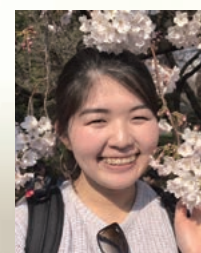
立っているようです。

ゼミの特徴として、留学経験者が多い点が挙げられます。さまざまな人種・民族・宗教の人々が暮らす場所に身を置き、マイノリティの抱える問題やエスニック集団の関係性などを身近で観察することを奨励しています。このため、毎年数名がアメリカやドイツ、オーストラリアなどの大学に留学し、帰国後は留学先で見たこと聞いたこと、体験したことを積極的にゼミの仲間と共有してくれます。訪れたことのない国の人種関係や、その国で暮らす移民の状況を想像することは困難ですが、留学経験者の話を聞くことで、メディアなどで報道されるのとは異なる、生活感のある実情を知ることができます。

卒業後、学生さんはさまざまな分野へと羽ばたいてゆきます。他大学の大学院に進学する人もいれば、IT関係、銀行、保険、航空会社などに進む人もいます。どのような場所に身を置いても、批判眼を持った、自分の意見をはっきり主張できる社会人として活躍しています。



武井先生のゼミナールでは、マイノリティをテーマに研究・学習をしてきました。授業では、毎回異なるテーマについて担当者が発表し、その問題について皆で意見を出し合い、論を深めました。皆で賛成・反対意見を出し合うことは、とても刺激的で楽しかったです。マイノリティとは、「皆と異なる」として差別されてきた人たちのことです。マイノリティの問題は現在も世界中で紛争の原因となっています。問題の歴史的起源を学ぶことにより、今日この世界で起こっていることを今まで以上に理解し、考えることができるようになりました。2年間のゼミナールでの活動を通して、疑問に思ったことについて自発的に学ぶ力や、考察力がついたように思います。(国際コミュニケーション学科4年 大場 琴乃)



私は大学2年時に留学に行ったことをきっかけに、宗教に関して興味を持ったため武井先生のゼミに入りました。武井先生のゼミでは世界中での移民や難民についてのトピックを中心に勉強しています。こういった背景には民族の違いや宗教の違いが関係しており、宗教がどれだけ今の社会問題に影響を与えているか考えさせられ、益々宗教に対して強い関心を持ちました。そして卒業論文では日本人の宗教観念について研究しました。2年間のゼミでの取り組みを通じて、自分の興味を持った分野について深く探求する機会を持つことができ、本当に充実した学びの多い学生生活を送ることができました。(国際コミュニケーション学科4年 西山 優佳)



WTOがリードするグローバル経済における商社の役割	佐々木 智裕	三井物産エネルギー第二本部ガス物流事業部グローバルガストレーディング室LNGトレーダー	12月6日	4限	外国語演習II (世界貿易機関WTOレポート)	宇野 公子
中央銀行と金融システム	白塚 重典	日本銀行 金融研究所長	12月12日	3限	金融論	宇野 公子
バリの文化一折りと芸能	春日 聡	駒沢女子大学、常葉大学、多摩美大 各非常勤講師	12月13日	3限	東南アジア文化論 (島嶼部)	乾 尚彦
国際関係からみる沖縄の民主化の歴史	堀川 輝之	沖縄県南城市役所文化課市史編纂室 嘱託員 沖縄国際大学 非常勤講師	12月13日	4限	国際コミュニケーション基礎演習II・IVM	櫻井 大三
中世の地獄観 —ハムレットの父亡霊のいるところ	木村 恵子	神戸女子大学文学部 英語英米文学科教授	12月15日	4限	国際コミュニケーション基礎演習II・IVO	古庄 信

日本文化学科・国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
和食、家庭料理を理解し実現する	土井 善晴	おいしいもの研究所代表料理研究家	6月23日	3限	国際コミュニケーション演習U・日本文化演習N	品川 明

共通科目

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
世界貿易システムの現在とWTO	早藤 昌浩	世界貿易機関貿易政策検討部 参事官	6月6日	3限	基礎経済学	宇野 公子
法を学ぶ楽しさ・法曹の仕事の魅力	白石 大 松岡 佐知子	早稲田大学大学院法務研究科 准教授 早稲田リーガルcommons法律事務所 弁護士	6月28日	3限	法学I	櫻井 大三
着物による表現手法と身体	宮本 恵美子	NPO法人日本伝統芸能教育普及協会 講師 (着物文化研究者)	7月20日	4限	スポーツ・健康科学演習IB 和の身体技法	森田 ゆい
ビジネスと法律 —ビジネスを行う上で法律を知っていることがいかに重要か—	小林 朝弘	株式会社アイビーコンサルティング 代表取締役	11月1日	3限	法学II	櫻井 大三

学芸員課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
震災をも貫く魂のサイン	安藤 栄作	彫刻家	8月3日	4限	博物館実習IA	清水 敏男
日本画における膠の役割と歴史について	後藤 秀聖	日本画家	8月4日	3限	博物館実習IB	小勝 禮子
ジェンダーや言語に関わる自分のアートについて	碓井 ゆい	美術作家	12月2日	3限	博物館実習IIB	小勝 禮子

司書課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
国立国会図書館の電子図書館サービス	奥田 倫子	国立国会図書館 電子情報部電子情報流通課 標準化推進係長	11月13日	1限	図書館基礎特論	江藤 正己

日本文化学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
地域食文化 国際比較「台湾茶」から食文化を考察	沈 甫翰	奇古堂(台湾茶、茶器などの美術ギャラリー) 社長	5月24日	4限	比較生活文化論I (地域食文化論)	磯部 泰子
日本酒入門	遊佐 勇人	人気酒造株式会社 代表取締役	5月31日	5限	比較文化論VI (嗜好)	中野 美季
古代から中世までの社会制度について	関 幸彦	日本大学文理学部史学科 教授(本学非常勤講師)	7月24日	5限	日本社会制度史	岩城 宏明
震災とアート	村上 タカシ	宮城教育大学 准教授	8月3日	3限	日本文化演習IP・IIIP	清水 敏男
日本と世界の発酵食品	浅利 定栄	有限会社靴屋本店	12月22日	3限	日本文化演習II・IVN	品川 明
“しがらみ”と“こどく”のあいだのつながり	葛西 優香	株式会社HITOTOWA ディレクター・防災士	1月11日	2限	現代文化論I (都市論)	岩館 豊

国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
グリム童話から見るドイツ・ナショナリズム	村上 宏昭	筑波大学人文社会系 助教	5月18日	2限	ドイツ文化論I	武井 彩佳
宗教改革500年:修道士から英雄ルターへ	加藤 喜之	東京基督教大学神学部 准教授	6月1日	2限	ヨーロッパ文化論	根占 献一
在米コリアン社会の歴史と現状: アジア系移民との比較	関 丙甲	ニューヨーク市立大学(CUNY) 特任教授	6月19日	4限	朝鮮文化論	羅 京洙
法を学ぶ楽しさ・法曹の仕事の魅力	白石 大 松岡 佐知子	早稲田大学大学院法務研究科 准教授 早稲田リーガルcommons法律事務所 弁護士	6月28日	3限	法学I	櫻井 大三
Japan's International Contribution	YAMAMOTO Raymond	School of Culture and Society, Aarhus University Assistant Professor	7月5日	4限	国際コミュニケーション演習I・IIIM	櫻井 大三
横浜の歴史遺産の保存と活用	青木 祐介	横浜都市発展記念館 主任調査研究員	7月11日	4限	文化遺産学	ウーゴ ミズコ
イスラエルとアメリカのサイバーセキュリティ観: その歴史的背景と現在、サイバーセキュリティの先にある脅威としてのAIとロボット	佐藤 仁	株式会社情報通信総合研究所 副主任研究員	7月19日	4限	国際コミュニケーション演習IH・IIIIH	武井 彩佳
現場からみる現代中国事情	岡田 勝	外務省外交政策調整官 神戸市外国語大学客員教授	10月4日	2限	中国文化論	金野 純
SDGs 2030年までの課題と展望	小野 舞純	国連事務局 シニア・オフィサー	10月4日	3限	国際経済II	宇野 公子
放送用語の形成と標準語の普及	塩田 雄大	NHK放送文化研究所研究員	10月5日	1限	社会言語学II	福島 直恭
戦後ドイツの「新しい女性運動」	水戸部 由枝	明治大学政治経済学部 准教授	11月2日	2限	ドイツ文化論II	武井 彩佳
開発途上国のインフラ整備における官民連携	岩間 敏之	国際協力機構 専任参事	11月21日	4限	国際コミュニケーション基礎演習II・IVT	宇野 公子
なぜNPO法人か —NPO法人 新宿のゆったり〜の—	小原 聖子		11月28日	2限	ボランティア論II	伊藤 由紀子
パレスチナ問題の現場から —支配と抵抗の実態	金城 美幸	日本学術振興会特別研究員RPD 立命館大学非常勤講師	11月29日	2限	ヨーロッパ政治II	武井 彩佳
靴の可能性を五感で体感	浅利 妙峰	有限会社靴屋本店 代表取締役	12月1日	3限	国際コミュニケーション基礎演習II・IVU	品川 明



日本文化学科 教授

内野 儀

うちのただし



略歴

1957年京都市生まれ。東京大学大学院人文科学... 博士(学術)。岡山大学講師、明治大学助教授、東京大学教授を経て、2017年4月より現職。専門は表象文化論(日米現代演劇)。著書に『メロドラマの逆襲―(私演劇)の80年代(勁草書房、1996年)、『メロドラマからパフォーマンスへ―20世紀アメリカ演劇論』(東京大学出版会、2001年)、『Crucible Bodies: Postwar Japanese Performance from Brecht to the New Millennium』(Seagull Press, 2006)、『演劇の場所―トランスナショナルな移動性(モビリティ)』(東京大学出版会、2016年)ほか。公益財団法人セゾン文化財団評議員、アーツカウンシル東京ボード委員、公益財団法人神奈川芸術文化財団理事、福岡アジア文化賞選考委員、芸術・文化賞(JUNI Iosahedron Artistic Advisory Committee委員(香港))、表象文化論学会理事、『Performance Paradigm』(オーストラリア)及び『Dance Research Journal of Korea』(韓国)国際編集委員。

私の研究

私の専門分野は、表象文化論という名前で呼ばれています。表象文化論とは、絵画や映像、文学といったさまざまな表現を研究するもので、これまでであれば、美学・芸術学と

呼ばれていた分野と重なります。20世紀以降、映画やテレビにとどまらず、アニメ・マンガといった非伝統的な視覚メディアが優勢になり、研究対象のみならず、方法論も多様化してまいりました。その結果、新しい世代の研究者が集まって、表象を文化として、多角的に研究する表象文化論という学問分野が生み出されたのです。

そうした表象文化のなかでも、私が専門にしているのは、日本とアメリカを中心とした現代の舞台芸術です。当初は、20世紀のアメリカ演劇を中心に研究をしていて、その成果は『メロドラマからパフォーマンスへ』(東京大学出版会、2001年)として出版されました。しかし、大学院生の頃から、私は演劇創作の現場にもかかわっていて、演劇批評家としての執筆活動も、1990年代から始めていました。その成果は、『メロドラマの逆襲』(勁草書房、1996年)として発表しましたが、世紀転換期あたりから海外で日本の現代演劇についての研究発表や講演を行う機会が増え、『Crucible Bodies: Postwar Japanese Performance from Brecht to the New Millennium』(ぎょうの身体―ブレヒトから新世紀までの戦後日本のパフォーマンス)、『シーガル出版、2009年)として、英語で単行本を出すまでになりました。

こうして私は、日米の現代演劇研究を継続する一方で、日本の現代演劇の現場に足繁く通って批評文を書き、公益財団法人セゾン文化財団やアーツカウンシル東京のようなアーティストを支援する公的組織の役員としても活動しています。二つから得られた学問的・現場的な知見を、講義や演習授業を通して学生に還元することが、私の本学における第一義的使命です。しかし、そこにとどまらず、日本の現代文化を英語で海外に発信するという、私が過去20年間行ってきた活動を、引き継いでくれるような人材を育成することもまた、私に与えられた大切な役割だと考えています。

国際コミュニケーション学科 教授

宇野 公子

うのきみこ



略歴

学位・経歴／1982年ペンシルベニア大学(D. In Regional Science (地域経済学))1988-2009年 国際機関エコノミスト(国連、OECD、世界銀行) 2009-17年 東京外国語大学教授(国際経済学) 2017年から現職 担当科目／(学部)国際経済Ⅰ・Ⅱ、金融論、基礎経済、国際コミュニケーション演習、国際コミュニケーション基礎演習、英語演習、経済英語特殊演習(英語コミュニケーション学科) (大学院)国際関係分析演習、国際関係特殊研究 専門分野／国際経済学、金融論、経済学原論

私の研究・教育

2017年度から学習院女子大学で国際経済学の講義を担当しています。私は、1982年に米国ペンシルベニア大学の博士号(地域経済学)を取得後、終身雇用職員として27年間国際機関(国連、世界銀行、OECD)に勤務するなど、20代後半からの殆どの期間を海外で過ごしてきました。2009年に日本に帰国して、東京外国語大学で国際経済学を教えることができましたが、2017年から縁あって本学で国際経済学ゼミを担当することになりました。東京外大に引き続き、本学でも「国際経済(宇

野)ゼミ」の体制づくりを行っています。

授業では、入門レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学、そして金融論を解説します。第2次大戦後の経済体制は、プレトンス体制の下で、輸入代替に伴う工業化と共に発展して来ましたが、1970年代以降の展開は、石油危機と新しい古典派経済学の再興、1980年代の途上国の債務問題と構造調整プログラム、開発ミクロ経済学の登場とFDIの急増、1990年代のアジア経済危機と経済のグローバル化、と迫るることができます。研究面では、アメリカ経済学会と応用地域学会に属して、地域経済学の諸問題を分析しています。特に、2016年からはReview of Urban & Regional Development StudiesのEditorとして、世界各国から投稿される地域経済学に関する論文の査読・選考を行う活動を通して、地域経済学分野の発展に貢献しています。また学術振興会の競争資金(科学研究費)を得て、以下の課題について研究しています。

- ① 2012年4月〜2015年3月、OD A・FDIと人的資本形成の途上国におけるMDG改善効果の計量分析「基盤研究②(一般)」
- ② 2016年4月〜2019年3月、「アジアにおける高度専門人材の国際移動と人的資本蓄積」基盤研究②(一般)

最後に、学生たちが社会へ出る際に役立つ、経済学的な考え方と統計分析手法と併せて、キャリア形成に関する積極的姿勢も伝えたいと思います。具体的には、「日本の若者がよりスムーズに日本と国際的舞臺の両方に軸足を置くプロセスを強化する教育」に帰国以来取り組んでいます。本学の学生にも、宇野が開発した枠組みを利用して、自主的に勉強に取り組む、自由なコミュニケーションを通じて、日本と世界の両方に視座を据えた仕事ができる人材になって活躍してほしいと思います。その意味で宇野ゼミの目標は、「多様性に優れた分析力を持ち、競争力のあるゼミ生を育てることにあると言えます。」

国際コミュニケーション学科 教授

大桃 敏行

おおもとしゆき



略歴

東北大学卒業、同大学院博士前期課程修了。後期課程単位修得退学、博士(教育学)。東北大学教授、東京大学教授、同大学院教育学研究科長・教育学部長などを経て2017年4月より現職。日本教育行政学会会長。主な研究業績：『教育行政の専門化と参加・選択の自由』(単著)風間書房、『アメリカ教育改革の最新線』(共編著)学術出版会など。

私の研究

私の専門分野は教育行政学や教育制度論です。これまで取り組んできた研究について、いくつか紹介させていただきます。

まず、アメリカ合衆国(以下、アメリカ)の連邦政府の教育政策の研究です。連邦制を採用しているアメリカにおいて、教育は基本的に州の権限事項とされ、さらに多くの州で公教育制度は地方に広範な裁量を認めるかたちで形成されました。しかし、連邦政府の教育への関わりは建国当初からみられ、近年では成果に対して厳しいアカウンタビリティを求める政策が実施されてきました。この連邦政府の教育政策について、教育の平等保障と州自治、地方自治、親の教育の自由などとの関係から検討

英語コミュニケーション学科 准教授

田島 千裕

たじまちひろ



私の研究

私の専門分野は、英語教授法、異文化コミュニケーション、留学研究、混合研究法です。研究は常に、日本人大学生の国際性の育成を念頭に行っています。グローバル化が進む現代社会において、日本人大学生の英語コミュニケーション・異文化コミュニケーション能力の育成が益々重要な課題になっているからです。この国際性とは、さまざまな話題に対する関心と考えを持ち英語で情報を理解・発言できる英語能力、および価値観の多様性を理解・容認できる異文化感受性、さらに異なる状況下でコミュニケーションができる異文化コミュニケーション能力を持ち合わせていることを指します。研究は、混合研究法と呼ばれる、質・量データを統合する、比較的新しい方法を用いて行っています。

2008年以前は、主に教室内の英語教育を対象に、英語教授法の領域において研究を行っていました。英語教授法とは、英語を教えるための効果的な方法を研究する分野です。具体的には、教室内の英語教育環境の設定、スキル教育の方法論、認知的・感情的に学習者を引き込む活動設定など、実践的な教育

を行ってきました。

次に、日本の教育改革、特に地方段階での教育改革に関する調査研究です。日本においても規制改革・分権改革のもとで、自治体や学校で独自の改革や実践がみられるようになってきました。各地を回りながら、新たな取り組みがどのような能力の育成に寄与し、国レベルの教育保障とどう関わっているのかについて検討を行っています。東日本大震災後は、震災と教育に関する共同研究にも参加してきました。

また、以上の政策や改革事例の研究とともに、教育の平等保障論や教育行政の専門性と民主性などに関する理論研究に取り組んできました。アメリカの教育哲学者にケネス・ハウという人がいますが、教育の平等保障論については彼の著書の翻訳を通して考察を行ってきました。教育行政の専門性や民主性については、以上の政策や改革の分析と往復しながら検討を進めてきました。今後は、教育統治構造の変容と教職との関係について考察を深めていきたいと思っています。

本学におきましては、以上の研究成果を活かしながら、グローバルとローカルの両方の観点から、教育について学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。また、教職課程を担当し、学習院女子大学らしい教師を育てていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



方法に関わる課題について研究していました。

2009年以降は、研究の対象を留学環境という異文化接触状況に広げました。留学環境は、自然な英語コミュニケーションを促すと同時に、異文化感受性を高めます。つまり、留学研究では、英語能力と異文化能力の双方の獲得過程を同時に研究課題として取り上げることが可能です。具体的には、英語学習への動機づけ、英語コミュニケーションへの積極性、英語への自信、英語使用への不安といった情意面、及び異文化感受性が、留学中の英語習得の伸長や英語コミュニケーション量に与える影響を研究しています。

今後、英語教授法、異文化コミュニケーション、留学研究の領域で、混合研究法を用いた研究を継続する予定です。実践研究の利点は、研究結果を教育活動に活かせる点といえます。今後は国際性の育成を主目的とした研究を充実させることで、教育の質も上げていく所存です。これからどうぞよろしく申し上げます。



# 図書館からのお知らせ



## ■参加女子大学について

今回のフェアは本学図書館が都内の女子大学図書館に開催を呼びかけたことが発端になります。学生選書本とPOPカードを合同で展示して、広く一般の方にもご覧いただくという企画は初めての試みだったため、趣旨に賛同いただけるかが心配でした。しかし都内でも主要な女子大学である、共立女子大学、昭和女子大学、白百合女子大学、清泉女子大学、東京女子大学の各図書館に参加いただき、6女子大学で協力して開催することが決定しました。各女子大学図書館からは厳選した5冊の学生選書本と学生が作成したPOPカードを提出いただくことになり、書店の書棚には30冊ものおすすめ本と各女子大学のカラーを発揮した素敵なPOPカードが揃い、女子大学合同ならではの華やかなフェアになりました。



「東京の女子大学学生が選んだおすすめ本」フェアのポスター

## ■フェアにおける本学学生の活躍

フェアの準備を進めていたところ複数の女子大学図書館より、学内外における広報のために統一されたフェアのポスター作成が提案されました。本学図書館においてもその必要性を認識していたため、デザインを本学において考えることになりました。そこでブック・セレクトターに声をかけたところ、日本文化学科2年生の篠原千咲さんがデザインを引き受けてくれました。



書店に掲示されたフェアのポスターとデザインを担当された篠原さん

フェアの名称を参加女子大学名が囲む円形のロゴと図書館で本を読む学生の写真から構成されるポスターのデザインは学内外の評判も高く、各女子大学図書館においてはホームページへの掲載やキャンパス内における掲示など、大いに活用いただきました。また書店にお

## 東京の女子大学学生が選んだおすすめ本フェア

平成29年12月4日(月)から15日(金)までの予定で、新宿駅東口の紀伊國屋書店新宿本店において、都内の女子大学図書館合同企画「東京の女子大学学生が選んだおすすめ本」フェアを開催しました。同書店においては本学図書館単独で開催した「学習院女子大学の学生が選んだおすすめ本」フェアを平成28年度より複数回開催して、ブック・セレクトター(学生選書委員)が選んだ図書にセレクトター作成の「お薦めコメントを書いたPOPカード」を添えて展示させていただき好評を博しました。今回は同様の取り組みを行っている都内の女子大学図書館と連携して実施したフェアの様子について紹介したいと思います。

いても人通りの多い1階エレベーター横の他、複数のフロアに掲示され店舗全体でフェアを盛り上げていただきました。今回のフェアが成功した要因の一つとして、広報におけるポスターの効果を挙げていただく声が学内外から多数寄せられました。

## ■ブック・セレクトターの感想

フェアの初日にブック・セレクトターが書店を訪ねて、各女子大学のおすすめ本とPOPを見学させていただきました。セレクトターからは「六つの女子大学が揃うと壮観でした。華やかな中にも各女子大学の個性や特色が出ており、本の魅力に心が引き付けられました」「私はあまりPOP作りが得意ではないので、他女子大学のPOPを参考にして同じように素敵なPOPを作ることができるになりたいです」などの感想を聞くことができました。今回のフェアは今後のブック・セレクトターの活動に対しても多くの刺激を与えてくれたようです。本学図書館における学生選書コーナーの更なる発展が大いに期待できます。

## ■これからの都内の女子大学図書館との協力

今年度初めて開催した「東京の女子大学学生が選んだおすすめ本」フェアは好評のうちに終了しました。冒頭で紹介したように15日(金)が最終日の予定だったのですが、お客様の評判も良かったことから書店の判断により、フェアは17日(日)まで延長して開催されました。今回他の女子大学図書館と協力してフェアを開催できたことにより、本学図書館としては合同展示以外でも協力していくことができると考えています。例えば学生選書委員同士の交流や知的書評合戦ビブリオバトルの合同開催など、他女子大学図書館との連携や協力体制の構築に向けて取り組んでいきます。ブック・セレクトターをはじめとしたこれらの活動に興味のある学生の積極的な参加を図書館は心よりお待ちしております。



各女子大学の学生が選んだおすすめ本と学生が手作りしたPOP

## 専任教員著書の紹介

2017.1.1 ~ 2018.2.28

※原則として単行書を取り上げ、著作形態および紹介文は教員の報告に拠っています。



今橋 理子 教授

江戸の花鳥画—博物学をめぐる文化とその表象

単著

出版社名/講談社学術文庫

出版・発行年月/2017.1

内容/博物学が隆盛した江戸時代、人々はこぞって自然物を観察することに熱中した。そのような時代背景の中で「花鳥画」とそれを取り巻いていた諸文化は、(伝統)の枠を超えて新しい相貌を見せていた。1995年(スライドア刊)初版の文庫化。同年のサントリー学芸賞・芸術選奨新人賞ダブル受賞作。



武井 彩佳 准教授

〈和解〉のリアルポリティクス

—ドイツ人とユダヤ人

単著

出版社名/みすず書房

出版・発行年月/2017.1

内容/ドイツ人とユダヤ人はホロコーストの後にいかに関係を構築したのか、困難な過去を乗り越える「和解」のプロセスを検証。



萱 忠義 准教授

Get Ready for the TOEFL Test

共著:筆頭著者

出版社名/成美堂

出版・発行年月/2017.1

内容/TOEFLテストに出題される設問形式や多岐にわたる学術的な話題を通して、英語の総合力を養い、英語4技能を包括的に学べる大学用英語教科書。



根占 献一 教授

イタリアルネサンスとアジア日本

単著

出版社名/知泉書館

出版・発行年月/2017.2

内容/15世紀・16世紀のヨーロッパの実情、特にイタリアの宗教・思想状況を視野に入れてキリシタン時代の日本を考察し、この時代に特有の世界史的意義を呈示する。



岩淵 令治 教授

鳥取藩研究の最前線

共編著

出版社名/今井印刷

出版・発行年月/2017.3

内容/第六章「鳥取藩・鳥取藩士と江戸寺社」を担当し、鳥取藩を事例に、従来未解明だった藩士(定詰)の菩提寺、および急死した武家奉公人の埋葬先となる寺院を検討し、武家屋敷と江戸寺院社会との関係を明らかにした。



石澤 靖治 教授

トランプ後の世界秩序—激変する軍事・外交・経済

共編著

出版社名/東洋経済新報社

出版・発行年月/2017.4

内容/米大統領に就任したトランプの政権は全てが異例づくめだが、大統領選の分析、政権の安全保障・経済政策、メディア戦略、日米関係の行方、米中関係、米口関係、中東政策へのアプローチなど様々な角度から分析したもの。



ウーゴ ミズコ 准教授

Time Frames: Conservation Policies for 20th Century Architectural Heritage

執筆

出版社名/Routledge, Taylor & Francis Group

出版・発行年月/2017.4

内容/日本における近代建築の保護に関する論考。日本特有のモダニズム建築の再発見、歴史的建造物の個別的な保護から都市の面的な文化財保護への変化を巡る考察を展開。



福島 雅子 准教授

徳川家康の服飾

単著

出版社名/中央公論美術出版

出版・発行年月/2018.2

内容/江戸幕府を開いた徳川家康は、どのような衣服を身にまとっていたのか。徳川家康という所ユーザーに着目し、現存する家康所用の多様な服飾類を取り上げ、日本服飾史上における位置付けやその創出の意義を論じる。



4月9日

女子大学雅祭に初参加。新入生の熱気にあふれるメインホールで、草上会活動の説明をいたしました。その後新入生の皆さん達はピンゴゲームで大盛り上がり！皆さんと楽しいひとときを過ごしました。

雅祭



4月16日

学習院目白キャンパス

### 花見茶屋・ヨーヨーつり

花見茶屋は、温かいお茶とおまんじゅうのおもてなしで来場者にくつろいでいただきました。ヨーヨーつりは、毎年お子様方に大人気のコーナーです。平成30年度は、4月15日開催予定です。

オール  
学習院の  
集い

6月18日

ホテルオークラ東京

第59回草上会総会・懇親会が会員112名の出席の中、開催されました。総会に引き続いての懇親会では、会食、和やかな時間を過ごしました。

総会・  
懇親会

### 講演「決して敷居は高くない！奥が深い能の世界」

講師 喜多流能楽師 塩津圭介氏  
装束や面もお持ちいただき、能の生い立ちから現代における能の楽しみ方などユーモアを交えたお話に、能への興味が深まり、とても身近に感じる事が出来ました。平成30年度は、6月10日(ホテルオークラ東京)で開催予定です。



10月7、8日

互敬会館3階

### ホームカミングデー

バザーは、毎年、卒業生からご寄付いただいた品々を多くの学内外の方々にご購入いただき好評を得ています。講演会は7日、下野泉さん(昭51国卒)「スペイン語翻訳を通して広がった日本古典文学の世界」。8日、遠藤清子さん(昭39英卒)「人生を振り返って、今私にできること」。両日ともその後サロン会場にて講演者を交えて茶話会を行い、お集まりの大勢の皆様と楽しい会話が弾み心温まるひとときを過ごしました。

和祭参加



10月25日

### 紅葉の群馬路世界遺産 富岡製糸場を訪ねて

36名のご参加をいただきバスツアーへ行ってきました。富岡製糸場ではガイドさんのお話を伺い、お昼は「豆腐懐石」、そのあとは、群馬県立歴史博物館。旅のラストはラスクで有名なガトーフェスタハラダの工場見学へ。天気は残念でしたが、皆様笑顔でツアーを終えることが出来ました。

企画

毎月第2水曜日

互敬会館3階草上会洋室

新宿区社会福祉協議会に寄贈する「ふきん」縫い、古切手の収集寄付、和祭バザー用の小物作製等の作業を会員有志が和気あいあいと行っています。

ボランティア

●詳しくは草上会ホームページをご覧ください  
<http://gakushuin-ouyukai-branch.jp/soujoukai/>

### ボランティア活動

草上会の社会貢献の一環であるボランティア活動の歴史は古く、昭和40年の麻布慶福育児会への奉仕活動から始まります。会員の有志が慶福育児園に出向いて、おむつたたみや、ミシン掛け作業をしていました。

平成8年頃からは、戸山キャンパス内の草上会に場所を移し、今日まで活動を続けております。ここでは、地域に貢献する意味もあり、新宿区社会福祉協議会に協力しております。主な作業は「ふきん」縫いです。会員寄贈のタオルを2枚に切って作る「ふきん」は、施設の方々の口や身体を拭くために利用されています。一針一針丁寧に手縫いした品で、柔らかく使い勝手が良いと喜ばれ、私たちも作り甲斐を感じております。毎年2月に、出来上がった「ふきん」と車いす3台を社会福祉協議会に寄贈して、感謝状を頂戴しております。また、和祭のバザーでは、布製小物を作製して販売し好評をいただいております。

その他、草上会ロビーにアクリル製の20センチ程のボックス

を置き、会員の皆さんに使用済み切手の収集を呼びかけています。1年経つと、ボックスが一杯になる位に集まります。これを整理し、年度末の3月に高田馬場の日本キリスト教海外医療協力会に持参致しております。

活動は、毎月第2水曜日、午後1時～4時です。皆さんが和気あいあいと活動に取り組んで下さり、会員の親睦を深める場ともなっております。

(安堂洋子)



### オール学習院の集い

4月16日(日)に「第31回 オール学習院の集い」が目白キャンパスで開催されました。

草上会からは例年と同じく「花見茶屋」と「ヨーヨーつり」が参加いたしました。

「花見茶屋」は、緋毛氈の掛かった椅子でお茶とお菓子をいただきながらちょっと一休み、という方々が次々と訪れて下さいました。

又、傍らで販売いたしました花園万頭、パウンドケーキ、ラスク、お煎餅等も大変好評でお求めになる方々で賑わいました。

「ヨーヨーつり」は、毎年お子様方に大人気！

一人で3つも4つものヨーヨーを抱えて、嬉しそうにお友達と連れだって歩くほほえましい光景のなか、草上会の方々が、何日も前から準備して作りました1500個程のヨーヨーを完売することができました。

今年は天候にも恵まれ、皆様のご協力のもと、大盛況のうちに無事終えることができました。

幼稚園から大学まで、又そのご父母やご卒業生、教職員の方々、近隣の方々が年に一度集う「オール学習院の集い」に毎年参加することができますのも、草上会の皆様、大学、「オール学習院の集い」の関係者の方々のご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

(高山美穂)





平成30年度 女子大学奨学金一覧表

※特記がない場合は学部・大学院共に対象。各奨学金の詳細は学生部窓口にお問い合わせください。

制度名	金額(円)	募集時期	貸・給別	備考			
安倍能成記念教育基金奨学金	450,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象			
学習院女子大学学業優秀者給付奨学金	学部学生 150,000 大学院生 300,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象			
学習院女子大学大学院研究奨励金	大学院生 35,000	4月上旬	給付	在学期間合計2回限り			
学習院女子大学学費支援給付奨学金	学部学生 第2期授業料相当額	4月中旬	給付	採用1ヶ年			
学習院女子大学奨学金	大学院・学部学生 学費納付金相当額以内(通算2学期分以内)	4月中旬	貸与	採用1ヶ年 2年生以上対象			
学習院女子大学教育ローン金利助成奨学金	在学中利子分給付(年50,000を上限)	G-Port・掲示による	給付	採用1ヶ年 毎年申請			
学習院女子大学海外留学奨学金	500,000以内	G-Port・掲示による	給付				
学習院女子大学海外留学奨学金 (交換によらない難関協定校への留学)	600,000以内	G-Port・掲示による	給付				
学習院女子大学海外短期語学研修奨学金	100,000以内	G-Port・掲示による	給付				
学習院女子大学海外ボランティア活動奨励金	100,000以内	G-Port・掲示による	給付				
学習院女子大学協定留學生奨学金	500,000以内	対象者へ個別通知	給付	協定留學生対象			
学習院女子大学外国人留學生奨学金及び奨励金	奨学金 200,000	5月中旬	給付	毎年申請			
	奨励金 300,000	5月中旬		毎年申請			
学習院父母会奨学金	学部学生 授業料・施設設備費相当額 (100万円を上限)	G-Port・掲示による	給付	採用1ヶ年 家計急変者に限り 在学中1回まで			
日本学生支援機構	学部学生	第1種 (無利子)	平成30年度 入学者	自宅 月額20,000/30,000/40,000/ 54,000のいずれか 自宅外 月額20,000/30,000/40,000/50,000/ 64,000のいずれか	4月上旬	貸与	卒業月まで貸与
			平成29年度 以前入学者	自宅 月額30,000/54,000 のいずれか 自宅外 月額30,000/64,000 のいずれか	4月上旬		
	大学院生	第1種 (無利子) 第2種 (有利子)	第2種 (有利子)	月額120,000上限	4月上旬	貸与	卒業月まで貸与
			第1種 (無利子)	月額50,000または88,000	4月上旬		
日本学生支援機構 私費外国人留學生学習奨励費	月48,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 追加推薦あり			
その他私機関による奨学金制度	その都度掲示を見てください。						

平成30年度 学年暦

4月	春季休業	1(日)~8(日)	10月	和祭準備(休講)	5(金)	
	新入生ガイダンス	2(月)~6(金)		和祭(休講)	6(土)、7(日)	
	健康診断	2(月)、3(火)		和祭片付け(休講)	8(月)	
	入学式	4(水)		開院記念日(休講)	17(水)	
	雅祭	7(土)		11月	振替休講日	1(木)
春学期授業開始	9(月)	卒業論文・卒業研究受付期間	12(水)~18(火)			
5月	臨時休講	1(火)、2(水)	12月	休日開講日	24(月)	
	開学記念日(開講日)	15(火)		冬季休業	25(火)~1/8(火)	
6月	卒業論文・卒業研究受付期間	16(月)~19(木)	1月	授業開始	9(水)	
		休日開講日		16(月)	補講期間	22(火)、23(水)
		補講期間		23(月)、24(火)	秋学期末試験	24(木)~30(水)
		春学期末試験		25(水)~31(火)	秋学期授業終了(試験予備日)	31(木)
		春学期授業終了(試験予備日)		1(水)	2月	学年末休講
8月	夏季休業	2(木)~9/20(木)	秋学期追試験	12(火)、13(水)		
	集中講義期間	2(木)、3(金)、6(月)~8(水)	卒業式	19(火)		
	春学期追試験	13(木)、14(金)	3月	在学生ガイダンス	22(金)、25(月)~27(水)	
9月	秋学期ガイダンス	18(火)~20(木)		春季休業	24(日)~31(日)	
	秋学期授業開始	21(金)				
	休日開講日	24(月)				

平成29年度 入試の概要

国際文化交流学部	学科	入試の種類		
		入試の種類	人数	
国際文化交流学部	日本文化学科	一般入試	志願者	695
			合格者	206
			入学者	113
		その他 特別入試	志願者	69
			合格者	62
			入学者	59
	合計	志願者	764	
		合格者	268	
		入学者	172	
	国際コミュニケーション学科	一般入試	志願者	1,314
			合格者	353
			入学者	129
その他 特別入試		志願者	99	
		合格者	82	
		入学者	75	
合計	志願者	1,413		
	合格者	435		
	入学者	204		
英語コミュニケーション学科	一般入試	志願者	359	
		合格者	111	
		入学者	48	
	その他 特別入試	志願者	12	
		合格者	10	
		入学者	7	
合計	志願者	371		
	合格者	121		
	入学者	55		
学部合計	志願者	2,548		
	合格者	824		
	入学者	431		

(平成29年4月1日現在)

平成30年度 入試途中経過

入試区分	学科	募集人数	志願者	受験者	合格者	倍率	
一般入試A	日本文化	60	395	386	173	2.2	
	国際コミュニケーション	70	867	839	251	3.3	
	英語コミュニケーション	30	183	176	96	1.8	
一般入試B	日本文化	20	290	262	22	-	
	国際コミュニケーション	30	392	362	32	-	
	英語コミュニケーション	10	64	53	12	-	
特別入試	海外帰国生徒	日本文化	若干名	8	4	3	1.3
		国際コミュニケーション	若干名	11	8	7	1.1
	外国人留學生	日本文化	10	9	9	6	1.5
		国際コミュニケーション	10	16	16	12	1.3
	社会人	日本文化	若干名	1	1	0	-
		国際コミュニケーション	若干名	1	1	0	-
	推薦A	日本文化	40	45	45	45	1.0
		国際コミュニケーション	50	53	53	53	1.0
		英語コミュニケーション	5	2	2	2	1.0
	推薦B	日本文化	10	21	21	17	1.2
		国際コミュニケーション	10	34	34	20	1.7
	AO	英語コミュニケーション	若干名	17	15	13	1.2
女子高等科 推薦入学	日本文化	若干名	1	1	1	1.0	
	国際コミュニケーション	若干名	0	0	0	-	
	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	-	
総合計	日本文化	140	770	729	267	-	
	国際コミュニケーション	170	1,374	1,313	375	-	
	英語コミュニケーション	45	266	246	123	-	
	合計	355	2,410	2,288	765	-	

※注：一般入試A方式は補欠線合格者を含み、B方式は正規合格者のみ  
推薦指定日本語学校出身者を含む(平成30年3月1日現在)

学習院女子大学 学生数 一覧

学科	日本文化学科	国際コミュニケーション学科	英語コミュニケーション学科	合計	大学院修士課程
1年	172	203	55	430	3
2年	168	206	57	431	9
3年	178	209	50	437	-
4年	174	243	51	468	-
合計	692	861	213	1,766	12

(平成29年12月1日現在)



## 04 新協定校が誕生しました！フランス・西部カトリック大学／アメリカ・ウェストアラバマ大学

学習院女子大学は、フランスの西部カトリック大学 (Université Catholique de l'Ouest) およびアメリカ合衆国のウェストアラバマ大学 (University of West Alabama) の2校と、新たに交流協定を締結しました。

西部カトリック大学との学生交換協定は2017年3月3日付で発効しました。同大学は1875年に創立された、メーン=エ=ロワール県の県庁所在地アンジェにある私立大学です。法学、教育、人文社会科学、人文学、科学、神学の6学部



です。世界各国の170の大学と協定を結び、約1,700名の留学生を受け入れるなど、国際交流も盛んに行われています。

また、ウェストアラバマ大学との学生交換協定は2017年6月16日に本学において調印式を行い、発効いたしました。同大学は1835年に創立された、アラバマ州リビングストン市にある州立大学です。経済学部、教育学部、教養学部、理学部、看護学部の5学部からなります。アメリカ国内でも安全なキャンパスの一つで、アラバマ州の安全なキャンパスランキングで第1位にも選ばれています。近年、海外の協定校を増やしており、国際交流に力を入れています。



## 05 イブニング学校説明会開催

2017年10月～12月に、お仕事の関係で、ウィークデーの夕方であれば学校にお越しになれない保護者の皆様を対象に、5回のイブニング学校説明会を開催いたしました。

学長からの挨拶、副学長による学校説明、入試と学びに関する

個別相談と、学習院女子大学の特色をコンパクトにまとめて説明し、ご参加いただいた保護者の方々から好評を得ました。



## 06 マナー・プロトコール検定の成績最優秀校に選ばれました

2016年度のマナー・プロトコール学内検定で、本学が成績最優秀校に選ばれ、マナー・プロトコール協会理事長から表彰状が授与されました。授賞式には、成績優秀者の芳澤祐佳里さんが学生代表として出席しました。

マナー・プロトコール検定は日本人として、社会人として求めら

れるマナーやプロトコール(国際儀礼)に関わる知識と技能を認定する資格です。同協会の明石理事長は、本学の社会儀礼演習の授業をご担当いただいています。



## 07 地域のごみゼロ運動に参加しました

2017年5月31日と11月9日に近隣の商店会連合組合「明和会」と「大久保2丁目町会」によって実施された、「ごみゼロ運動」に参加しました。和(やわらぎ)祭実行委員会と卒業生委員会の学生有志にも協力してもらい、明治通り沿いの清掃活動を行いました。

明和会の方も驚かれるほど熱心に取り組み、植え込みの中



の小さなごみも見逃さずに手を差し入れて拾い集めました。作業中には近隣の方からお礼の言葉もいただきました。今後も本学では地域と一体となり、地域に貢献できる取り組みを行って参ります。

## 08 「第32回オール学習院の集い」開催のお知らせ

本院では、毎年4月に、学習院父母会、学習院桜友会及び常磐会のご協力を得て「オール学習院の集い」を開催しています。女子大学の学生団体も参加しますので、皆さんのお越しをお待ちしております。

なお、開会式及び大合同演奏会入場には、入場券が必要です。一般来場者席の入場券は、当日配付します。詳細は、平成30年3月中旬より学校法人学習院のホームページに掲載いたします。

- 日 時：平成30年4月15日(日) 午前9時30分～午後4時(雨天決行)
- 会 場：学習院目白キャンパス (豊島区目白1-5-1)
- 備 考：詳細は、女子大学事務室の窓口で配付しているパンフレット又はホームページ (<http://www.gakushuin.ac.jp/ad/somu/all/>) をご覧ください。

## 01 公開シンポジウム「国際社会で貢献する女性とは？」開催

(国際学研究所 国際コミュニケーション学科 教授 櫻井 大三)

4月21日「国際社会で貢献する女性とは?—人道支援及び国際報道の現場から—」(主催:学習院女子大学国際学研究所(GIIS) / 赤十字国際委員会(ICRC)駐日事務所)と題した公開シンポジウムを開催。スピーカーとしてICRC赤十字国際委員会副総裁クリスティヌ・ベリー氏、ファシリテーターとして元NHK記者、ジャーナリスト大村朋子氏をお招きしました。当日は300名が入る教室に立ち見が出るほどの大盛況でした。

クリスティヌ・ベリー氏は、シリア問題やスーダンでの武力衝突など、世界で人道支援が必要とされる様々な問題に責任者として対応してきました。シリアなど悲惨な現状に対して、人道支援だけでは解決できず政治的プロセスが必要であることを認識しつつ、「暗い夜が明ける兆し(false dawns)」という言葉を使って、希望を持ち続けることの大切さを説く一方、イスラエルの言葉「悲観的になるのは、何もしない言い訳に過ぎない」という言葉を引いて、自ら行動を起こすことの重要性を示しました。

学生との質疑応答では、仕事と家庭の両立やリーダーとしての資質などの質問が出ました。仕事と家庭の両立では「仕事をするからといって独身である必要はなく、両立することにより豊かな体験ができる」とし、「うまくいくために心から願ひ続け、その成功を信じる」とアドバイスをしていました。また、リーダーとしての資質で大切なこととして、目の前の仕事を大切にすること、自己の能力向上のために情熱を注ぐことを挙げ、「自らに与えられた規律を守りつつ、粘り強く学び続けることが大切」と説きました。



## 02 JMOOC『妖怪の世界を探る～その伝承とビジュアルテキスト～』徳田先生

11月1日(水)～12月6日(水)、オンライン無料講座JMOOCにおいて徳田和夫教授「妖怪の世界を探る～その伝承とビジュアルテキスト～」を開講しました。日本の「妖怪文化」について、民俗学、民間伝承、説話文学、ビジュアル・カ

ルチャーなどの面から探求し、妖怪文化への理解を深めます。日本の精神文化に触れることができる講座に698名の受講登録がありました。



## 03 Learning Support Room(ラーニングサポートルーム)開設

今年度から開設したLSR(ラーニングサポートルーム)では、学生たちが本学で十分な学びを得られるように、カウンセラーによるサポートを行っています。

春学期には、アンケート調査の結果をもとに、主に1年生の個別面談を実施しました。336名の学生が訪れ、進路・学生生活・勉強方法の話題を中心に、具体的な質問から漠然とした

不安まで、様々なお話を伺いました。これを踏まえ秋学期には、新たに「キャリアアドバイザー」による3年生個別面談や「プレゼンテーション講座」を実施しました。







## 留学生報告

協定留学生 (誠信女子大学)  
申 明 恩  
シンミョンウン

### 幸せだった留学生生活

約1年間、学習院女子大学の留学生として日本で過ごしながら、私は大事な思い出を沢山作りました。色々な人々に会って、日本の所々を訪ねて日本の文化を体験することはいつも楽しかったです。私が経験した幸せだった瞬間は数えられない程沢山ありますが、今は、その中で2件だけを話そうと思います。

#### ● 七夕の思い出

私は学校の国際交流推進センターが開催した七夕の夕べ(留学生Farewell Party)に参加したことがあります。留学生の友達と日本人の友達が一緒に浴衣を着て音楽に合わせて踊ったり語り合ったりしました。チームを決



七夕の夕べ(留学生Farewell Party)

めて色々なチームワークゲームをしながら日本人の友達と仲良くなって良かったと思います。お寿司などの色々な食べ物も本当に美味しかったです。翌日は、学校の留学生交流サークルの学生たちと一緒に竹芝の七夕祭りに参加しました。浴衣を着たままそこまで行くことは大変でしたが、今、考えてみれば、珍しい経験だったと思います。遊覧船に乗って見る海の風景が非常に綺麗でした。あの時、胸に溢れた感情は、今でも、ありありと思い出せます。遊覧船の中でサークルの友達と一緒に食べた食事とビールはとても美味しかったです。遊覧船中では多くの若者たちが音楽に合わせて歌を歌ったり踊ったりして本当に賑やかな雰囲気でした。あの時感じた活力はすこかったと思います。

#### ● 隅田川灯籠流し

私は夏休みに友達と一緒に浅草に行きました。その日は隅田川で灯籠流しの行事がある日でした。灯籠に私の願いを書いて隅田川に浮かすことでした。私は灯籠に韓国にいる家族の健康と友達の幸せなどを願う文を書きました。夜になって、灯籠を持っている人々がちらほら隅田川の周りに集まってきました。行事の開始を知らせる鐘の音が聞こえ、皆が敬虔な気持ちで火が付いた灯籠を川に浮かしました。私はその時のこうこうと輝いていた無数の灯籠の行列を忘れられません。遠ざかっていく灯籠を静かに見ながら物思いにふけっているように立っているその日本人たちの表情も忘れられません。その日の先日まで、願ひ祈ることがこうまで感動的



遊覧船にて



隅田川灯籠流し

なことだとは思ったことがありませんでした。本当に美しい浅草の夜でした。1年間程の幸せな交換留学生生活ができたのは決して日本にいただけからではありません。私の周りにはいつも私のことに気を使ってくれる人々がいました。そして、家族も友達もいない外国で1年のかかり長い期間を寂しさを感じなく幸せに過ごすことができたのは、全部、学校の日本人の友達、日本語の先生、国際交流推進センターの先生、外国人留学生たちのおかげだと思います。皆に心から感謝を感じています。



## 留学生報告

日本文化学科  
4年  
TRAN THI TAM  
チャン ティ タム

学習院女子大学に入学した日のことをはっきりと覚えています。4年間の大学生活はもうすぐ終わります。それまで本やインターネットで見ることがなかった日本を存分に楽しむことができました。4年間の留学生生活を振り返ると、多くの学びがあり、成長したように思います。

私は幸運にも学習院女子大学の推薦でロータリー米山奨学金を3年生から2年間いただくことができました。それまでは、私も多くの留学生と同様にアルバイトをしながら、学校に通う学生でした。奨学金をいただいた



ロータリーの活動

ことで、経済的な負担が軽減されただけでなく、時間的なゆとりを持つことができました。ロータリーの活動を通して、普段は話す機会のない社会的地位の高い方と交流することもできました。そのような方々と話す機会があったことは、間違いなく私の人生で大きな意味を持つことになりました。4年間の学生生活の中で一番印象深かったのは茶道です。茶道はお茶を飲みながら話すことだと思い、軽い気持ちで裏千家茶道部に入学したのが茶道を始めるきっかけでした。初めて茶室に入ると、お茶の魅力に強く



和祭にて裏千家茶道部のお茶会

引き付けられました。質素な茶室、素敵な茶花、きれいな茶具、優雅な所作、親切な先生や先輩など、あらゆるものの調和が取れていました。最初はお茶をたてるマナーを学んだら十分と思っていました。学べば学ばほど茶道は深いと感じるようになってきました。毎回茶室に入ると、自然に心が静かになって、落ち着きました。いつも季節に対応している茶花があるためです。お菓子やお茶碗なども季節に対応しています。すべて亭主がお客様のために心を込めて用意し



JAPAN TENTでのスピーチ

ているものです。このような精神を学び、自然にも人間にも感謝の気持ちを持つようになりました。私は学習院女子大学で多くの幸運に恵まれ、これ以上ないほどの満足した学生生活を送ることができました。学習院女子大学で学び、女性として成長できたと思います。最後に、普段から私の相談に乗ってくれた学習院女子大学の国際交流推進センターの皆様、またロータリアンの皆様にはどのようなお礼を申し上げればよいかな言葉もありません。誠にありがとうございます。



行事1

## Farewell Party ～七夕の夕べ～

平成29年7月6日(木)、互敬会館にて、9月で帰国する協定留学生のお別れ会「Farewell Party ～七夕の夕べ～」を開催しました。

学習院女子大学に在籍する留学生、日本人学生、教職員に加えて、隣接する東京都立戸山高等学校からも10名の生徒さんが参加してください、合わせて約60名が参加しました。

七夕飾りや浴衣など、日本の夏の雰囲気を楽しんでもらえるよう、ボランティアの学生たちが中心になって準備を進めました。小豆を箸でつまんで別のお皿に移して数を競うゲームを

行ったり、全員で輪になって盆踊りを踊ったりして、交流を深めました。

会の終わりには、神田典城学長より、今学期で留学期間が終了し帰国する協定留学生たちへ修了証が授与されました。その後、一人ずつ挨拶をして、たくさんの友達ができたことや、勉強を頑張ったことなどを話してくれました。皆さんがこれからも、それぞれの母国と日本との架け橋になってくれることを期待しています！



行事2

## 留学生日帰りバス旅行

霞会館芸術・伝統文化講座(留学生学外研修授業)として、平成29年10月17日(火)に箱根へのバス旅行を実施しました。本学に通う協定留学生、私費留学生、そして女子高等科に通う留学生も含めて、総勢30名が参加しました。

当日は朝から雨が降りあいにくの天気でしたが、参加した留学生たちは大涌谷の白煙が立ち込める迫力ある景色や、うっすらと霧がかかった芦ノ湖の幻想的な風景に感嘆の声をあげていました。箱根関所では、復元された関所の建物や資料館の見学を通じて、江戸時代の交通の要衝であった箱根の歴史につ

いて学ぶことができました。最後に訪れた箱根園では、箱根の伝統工芸品である寄木細工の体験をしました。寄木細工がどのように作られているのか、なぜ寄木細工が箱根で作られるようになったのか、などの興味深いお話を担当の方から伺ったあと、実際にコースター作り挑戦しました。12枚の板を貼りあわせ、それぞれ個性豊かな作品が完成し、良い記念になりました。

東京を離れ自然の中で日本の文化を体験し、更に日本への興味や理解を深めるとともに、留学生同士が交流する良い機会となりました。



行事3

## 留学生の話を聞こう!

国際交流推進センターでは、様々な国の留学生に母国の紹介をしてもらう「留学生の話を聞こう!」を定期的で開催しています。平成29年度は、ドイツ、ルーマニア、カナダ、中国、イギリス、ポーランド、韓国、ラオス、台湾の学生に母国の文化や自分が通う大学について発表してもらいました。留学生たちは、自国の歴史、名所や食べ物、音楽や有名人など、様々な視点から母国を紹介してくれました。

留学生にとって、人前で発表することは日本語の勉強になります。また、日本人学生にとっても、普段見聞きすることの少ない国の話を聞くことができるまたとないチャンスです。このイベントが、協定校やその国々への興味や理解を深めるきっかけになれば幸いです。



国際コミュニケーション学科  
3年  
石原 礼子

私はチェコのパラツキー大学に協定留学していました。チェコは非英語圏の中央ヨーロッパの国です。非英語圏の国なので授業はチェコ語でやったの?とよく聞かれますが、私が留学していたパラツキー大学では英語で開講されている授業や、留学生のために開講されている授業がたくさんあります。チェコをはじめとするヨーロッパは私にとって未知の世界でした。そこで私はチェコの文化や言語、ヨーロッパ文化などについて学ぶ授業を中心に履修していました。授業を通して一番感じたことは学生たちの学習意欲です。彼らはとても学習意欲が強く、授業以外の時間でも

日本について聞いてきたり、そこから派生して自分たちの学習分野について熱く語り合ったりしました。現地の学生たちと交流を深めていくうちに学ぶことの楽しさ、何のために学ぶのかについて改めて考えるきっかけになり、とても刺激になりました。チェコでの生活に慣れてから、私は積極的に留学生の交流イベントや自国の文化を発信するボランティアに参加しました。パラツキー大学には日本語学科があり、そこに通う学生たちと交流していくうちに、さまざまなイベントに誘われるようになりました。そこで私は折り紙を教えるたり、自国の文化を紹介するプレゼン

を行ったりしました。留学の集大成として、過去に災害があったリトミシュルという街の復興を支援するお祭りです。大学生生活のみならず、多くのイベントに参加することによって、さまざまな人と関わり、視野を広げることができました。この留学経験からここには書ききれない多くのことを感じ、学びました。その中で私が最も伝えたいことは、コミュニケーションは言葉だけではなく伝えない心も大事ということ。非英語圏ということもあり、学外ではほとんど英語が通じませんでした。最初は文化の違いや言葉が通じ

ないことで辛い思いをしました。でも、言葉が通じなくても伝えたいと思う気持ちや情熱があればコミュニケーションをとることにそこまで苦労はしません。言語とはコミュニケーションをするための一つの道具であって、それ自体が全てではないと感じました。チェコ留学を通して私は言語を学ぶ大切さと、またそれだけが全てではないということを感じました。この留学は私の人生の財産であり、自分自身と世界に対して向き合う貴重な経験でした。私にこの素敵な人生の一ページを設ける機会をくださった方々や家族に心から感謝したいと思えます。



ボランティアでお寿司作り



チェコ語のクラスメイトたちと



チェコの友人宅にて



## 音楽部

ごきげんよう。私達、学習院輔仁会音楽部は管弦楽団と合唱団から成る総勢200名の部員が所属する団体です。秋に行われる演奏会では管弦楽団と混声合唱団と一緒に大曲に挑むことが恒例となっております。

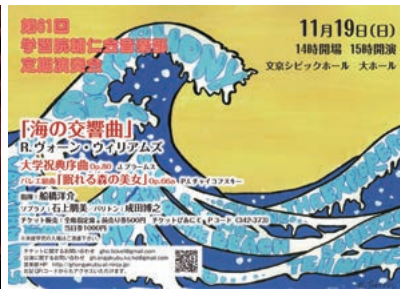
11月に文京シビックホールで行われた、第61回音楽部定期演奏会では指揮者に船橋洋介氏をお迎えし、ブラームスの『大学祝典序曲』、チャイコフスキーの『バレエ組曲「眠れる森の美女」』、そしてメインプログラムでは、今回がアマオケ初演となった、レイフ・ヴォーン・ウィリアムズの『海の交響曲』を演奏致しました。1,229名のお客様にご来場頂き、今年度

も大盛況のうちに終えることができました。

学生団体である私達が規模大な演奏会を開催することは、様々な面において大変なことであります。しかし、舞台上で部員全員が心を一つに、音を紡ぎ織り成すハーモニーを体感することは感動そのものです。一生ものの仲間と彩り豊かな大学生活を送りませんか？初心者も大歓迎です。部員一同お待ちしております！

国際コミュニケーション学科3年 石田 董(管弦楽団)

国際コミュニケーション学科3年 大鹿 礼奈(合唱団)



## 航空部

ごきげんよう。私たち航空部はグライダーというエンジンの無い飛行機で空を飛んでいます。体育会の部活ですが、厳しい筋トレなどは一切ありません！活動内容は毎週金曜日、学習院大学で行うミーティングと月に1、2回週末に行う宿泊、夏・春休みの長期宿泊のみです。

またイベントも盛り沢山です。夏の大会後は出場校と合同でのパーベキューがあり他大学との交流もたくさんあります。毎年冬には追い出しコンパで旅行に行ったり、ドライブに出掛けたりと、アットホームな部活です。

また、航空部ならではの魅力は活動の中でライセンスを取得出来ることです。取得後は1人で飛べるようになり、

生涯グライダースポーツを楽しむことが出来ます。

私たちも最初は初心者でしたが、先輩やコーチに優しく丁寧に指導していただき、今では1人で飛べる技量が身につきました。1人で空を飛べた時の喜びや達成感は何とも言えない感動があります。

授業を受けているだけでは得ることの出来ない達成感、充実感、仲間との絆を航空部では経験出来ます。私たち航空部と一緒に充実した学生生活を送りませんか。部員一同お待ちしております。

日本文化学科2年 金田 こゆき



## 留学制度について

本学在学中に留学するには、以下の4つの方法があります。

- ① 協定留学: 学内選考を経て、協定大学に留学すること。
- ② 私費留学: 学士の学位授与権のある大学または当該大学に直結する附属機関に、事前に本学の許可を受けた上で留学すること。(留学先は自分自身で選択。プログラムの内容によっては留学と認められない場合もあります。)
- ③ ダブルディグリー留学: 海外の大学に留学し、それぞれの大学で修得した単位の一部を両大学が相互に単位認定することで、両大学の学位を取得すること。(本学はカナダのレスブリッジ大学との間でダブルディグリー協定を締結しています。)
- ④ その他の留学: 本学を休学して、海外の語学学校・専門学校などへ留学すること。(夏休みなどの長期休暇を利用して留学する場合には休学する必要はありません。)

区分	留学期間	単位認定	学費	備考
協定留学	原則2学期(1年間)	可	本学学費全額納入・協定校学費免除	1学期(半年間)の留学も可能・4年間で卒業可能
私費留学	原則2学期(1年間)	可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	1学期(半年間)の留学も可能・4年間で卒業可能
ダブルディグリー留学	①2年次秋学期から留学する場合: 原則5学期(2年6ヵ月間) ②3年次秋学期から留学する場合: 原則4学期(2年間)	可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	最短5年間で卒業
その他の留学	1学期~学期に定める休学可能期間内	不可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	休学扱い・4年間で卒業不可

## 協定留学について

1. 協定留学とは  
本学では、現在15の国・地域の22校の大学と交換留学協定を締結しています。この22校の協定大学へ、学内の選考を経た上、本学より推薦を受けて派遣されることを協定留学といいます。
2. 学生交換・派遣プログラムのある協定大学一覧(平成29年12月現在)

国名	大学名/所在地	語学力の目安 ※①、②、③
アメリカ	ミズウリ南部州立大学 ジョブリン/ミズウリ州	TOEFL iBT 60点程度 または IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)程度
	カリフォルニア大学デービス校 ※④ デービス/カリフォルニア州	TOEFL iBT 80点以上 または TOEFL PBT (ITP) 550点以上 または IELTS 7.0点(Overall)以上 各6.5(L, R, W & S)以上
	ウェストアラバマ大学 ※⑤ リビングストン/アラバマ州	TOEFL iBT 60点程度 または IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)程度
カナダ	ノーザンブリティッシュ コロンビア大学 プリンスジョージ /ブリティッシュコロンビア州	TOEFL iBT 70点程度 または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)程度
	レスブリッジ大学 レスブリッジ/アルバータ州	TOEFL iBT 70点程度 または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)程度
オーストラリア	メルボルン大学 メルボルン/ヴィクトリア州	TOEFL iBT 79点以上 (セクション毎のスコア: R13 L13 S18 W21以上) または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)以上
イギリス	リーズ大学 リーズ/ウェスト・ヨークシャー州	IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)以上
エストニア	タリン大学 タリン	TOEFL iBT 50点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上 各5.0(L, R, W & S)以上
ポーランド	ワルシャワ大学 ワルシャワ	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度

※① 語学力の目安は平成29年12月現在のものであり、協定校側から変更通知がある場合があります。  
 ※② L=Listening, R=Reading, W=Writing, S=Speaking  
 ※③ 学部により異なる場合があります。  
 ※④ 私費による派遣のみとなります。  
 ※⑤ 平成29年度からの新規協定校です。

国名	大学名/所在地	語学力の目安 ※①、②、③
チェコ	バラツキー大学 オロモウツ	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
ルーマニア	ブカレスト大学 ブカレスト	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
ドイツ	ハンブルク大学 ハンブルク/ハンブルク州	ゲーテ・インスティトゥート・ ドイツ語検定A2レベル程度 または ドイツ語検定試験3級程度
	ミュンヘン大学 ミュンヘン/バイエルン州	ゲーテ・インスティトゥート・ ドイツ語検定B1レベル程度または ドイツ語検定試験2級程度
フランス	西部カトリック大学 アンジェ	ヨーロッパ言語共通参照枠B2レベル
中国	清華大学 北京	中国語検定試験(HSK)4級以上 または中国語検定試験3級以上
台湾	高雄大学 高雄	中国語検定試験(HSK)3級以上 または中国語検定試験3級以上
	静宜大学 台中	中国語検定試験(HSK)3級以上 または中国語検定試験3級以上
	実践大学 台北	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
韓国	誠信女子大学 ソウル	一般韓国語能力試験(S-TOPIK) 中級程度 または ハングル能力検定試験4級程度
	梨花女子大学 ソウル	一般韓国語能力試験(S-TOPIK) 中級程度 または ハングル能力検定試験3級程度
ラオス	ラオス国立大学 ビエンチャン	TOEFL iBT 57点以上 または同等レベルの英語能力
フィリピン	パーベチュアル・ヘルプ大学 ラスピニャス/マニラ近郊	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度

## 国籍別留学生受入数 平成29年12月1日現在

国籍	国籍別総数	合計	60
中国	19	私費	38
韓国	14	協定	18
台湾	5	国費	4
香港	4		
ベトナム	3		
ポーランド	3		
ドイツ	3		
アメリカ	2		
イギリス	2		
インドネシア	1		
マレーシア	1		
ルーマニア	1		
ラオス	1		
チェコ	1		

JASSOの外国人留学生在籍状況調査に準じ、「留学」の在留資格を持つ者を対象としています。

## 本学学生派遣数 平成29年12月1日現在

国	人数
アメリカ	7
カナダ	2
チェコ	3
台湾	2
ポーランド	2
イギリス	2
エストニア	2
韓国	1
ニュージーランド	1
合計	22
協定	14
私費	8

JASSOの日本人学生留学状況調査に準じ、平成29年4月1日以降に留学を開始した学生数をカウントしています。  
 注① 平成29年3月31日以前から継続している留学は含まれません。  
 注② 英コミの半セメスター留学および短期語学研修は含んでいません。

## 留学説明会について

留学に興味のある方は、  
留学説明会に  
出席してください。

春派遣は5月、秋派遣は10月に開催を予定しています。日時の詳細は、国際交流推進センター掲示板をご確認ください。



## せんのみやびぶ 日本文化研究千雅部

ごきげんよう。私たち日本文化研究千雅部は小原流生け花のお稽古を主な活動としています。活動は毎週火曜日に互敬会館3階の集会室、もしくは部室でお稽古をしています。

お稽古の時間は、11時から19時の間で好きな時にお稽古に参加することができます。多くの部員は各々の授業のない空き時間をお稽古に当てています。自分のペースで生け花を学んでいくことができ、継続していると卒業までにお花の先生の資格を取得することもできます。

10月の大学祭では部員がそれぞれ生けたお花の展示会

をしています。また母の日や父の日、クリスマス、お正月などイベントに合わせた生け花やフラワーアレンジメントも作製しています。そのほか夏休みなどの長期休みには歌舞伎鑑賞、文楽などへ行き日本文化に触れています。

ほとんどの部員が大学に入ってから生け花を始めています。初心者の方、経験者の方ともに大歓迎です。少しでもご興味を持っていただけましたらお気軽に見学、体験にお越しください。部員一同お待ちしております。

日本文化学科3年 長島 のぞみ



## 雅祭を 終えて

2017年度 雅祭実行委員長  
(国際コミュニケーション学科3年)  
芳賀 絢美

雅祭とは、毎年4月に行われる新入生歓迎会のことです。本学の委員会、公認団体クラブの紹介や新入生同士の交流の場となるような企画を行い、新入生の皆さんが本学でのこれからの学生生活にわくわくできるような場所を提供しています。

新入生の皆さんにより一層楽しんでいただけるよう、委員が一丸となり企画や運営に様々な意見を取り入れたことでより良い雅祭を創ることができたと自負しております。

今年度は委員一同初心に戻り、新入生の皆さんが抱えていた不安を取り除き、楽しんで大学生活を送っていただきたたく



思いました。そのために、在学生との交流の時間を増やしたり、友人をつくる際に気軽に話すことのできる空間作りを実現させようと奔走しました。雅祭本番を迎え、新入生の皆さんの笑顔や楽しんでる姿を見たときに感じた喜びは今でも忘れられません。

新入生の皆さんにとって、この雅祭が新しい一歩を踏み出せる機会になれば嬉しく思います。

最後に、委員やご協力くださった教職員の皆さま、各団体の皆さま、関係者の皆さまにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

## 「和祭」を振り返って

2017年度 大学祭実行委員長  
(国際コミュニケーション学科3年)  
大星 結子

今年度、学習院女子大学の大学祭「和祭」は10月7・8日の2日間行われました。1日目はあいにくの雨でしたが、2日目は晴れ、多くの方々に来場していただけたことを心より嬉しく思っております。

今年度の和祭は「プリズム」広がる虹色の輝き」というテーマを掲げました。プリズムとは、光を屈折分散させる、ガラスなど透明体の三角柱のもので、このプリズムに「見えない」と思われている光を通すと、赤から紫まで様々な色に分けられ虹色を作り出します。つまり、実は光には見えないだけで様々な色があるので、このことから私たちは、私たち自身が光となり、大学祭というプリズムを目指して「一致団結し、大学祭を通して」目には見えない各々の個性を引き出

し、そのことにより、今までにない大学祭になると考えました。また、大学祭というプリズムを通すということは、来場してくださる一般の方やOGの方々にも当てはまります。学習院女子大学の歴史ある赤門を通った瞬間、プリズムを通った光と同様に、来場者の皆様にも楽しみ、参加していただくことで、自分の色を出していただき、委員や在校生とともに虹色の輝きという名の今までにない大学祭を作り上げたいと考えました。以上の思いを胸に、総勢328名の委員一同全力で活動してまいりました。

私は、委員長というのは大学祭の運営者と委員の長という二面性があると考えました。そこで、運営する者として「来場者の方々に楽しみつつ、参加していただくこと」で一緒に大学祭を

作り上げていただきたい」という思いから、参加型の企画を多く用意するよう努めました。一方で、委員長としては、「委員全員が最後に笑って楽しかった、委員会に入つてよかった、といえるものになりたい」という思いがありました。これは、「運営する側が楽しまなければ、楽しいものを提供できない」という考えからです。そのために、毎週お昼休みに行う定例会にスライドを取り入れることで楽しく確実に情報共有をしました。また、委員一人一人の意見を反映するために目安箱の作製もしました。その他にも、一人一人に話しかけるなど様々な工夫をしました。以上のように強い思いで大学祭に取り組んできたのは、委員長になりたくという大学1年生の頃からの念願がかなったからといえるでしょう。なので、当初私は委員長を務めるにあたり不安はありませんでした。しかし実際には、予想よりも忙しさがなく、それがかえって不安になってしまいました。その時に言われたことが「そこそが高の経営だ」という言葉です。14の部署の責任者がそれぞれ物事を解決し、進めてくれるおかげで余裕があるのだと説明されました。終わって

みると、先述したような工夫や今年度新たに挑戦したことなどのアイデアは、余裕があったからこそ生まれたのだと思います。そこで改めて、共に乗り越えてきた14部署の責任者たちに深く感謝すると共に、責任者が彼女たちでよかったと思えました。このメンバーで運営することができたことが幸運なのだと思っていました。そして、私は本当に頼りない委員長だったので、私には頼りない委員長だったので、張つてくれた委員たちには感謝の気持ちでいっぱいでした。また、和祭を盛り上げるために参加してくださいました学習院女子大学の参加団体の皆様、他大学の参加団体の皆様にも改めて御礼申し上げます。

そして最後になりましたが、4月から大学祭のために多くの時間をかけてアドバイスをくださった、当日も尽力くださいました学生部、毎回の打ち合わせにおいて貴重なご意見をくださいました教職員、また協賛企業やOG、ご父母の皆様、今年度も無事に和祭を終えられたことは皆様のご支援とご指導の賜物と深く感謝しております。本当にありがとうございました。







全日本空輸

平成30年3月  
日本文化学科 卒業

大島 友梨華

内定

私は、6歳から続けている生け花や大学で学んだ日本文化を活かせる職業に就きたいと考えておりました。就職活動では、業界を幅広く見て説明会にたくさん足を運びました。その中でも、客室乗務員を選んだ理由は日本の食や文化を機内から世界へ発信する取り組みをされる姿に、私の就職活動の軸であった日本文化に関わるといふところと一致していると感じたからです。また、学内説明会で内定先の社員の方とお話をさせて頂いた際に、お客様一人おひとりを想うあたかなおもてなしのエピソードや、チームワークを大切に活き活きとされている社員の方々大変

感銘を受けました。そのような、お客様と仲間を大切にされる社風に強く惹かれました。私も、来年からANAの一員として気づきを大切にお客様に寄り添ったサービスが出来る客室乗務員を目指して参ります。

これから就職活動が始まる皆様、就職活動の間は毎日が忙しくあつという間に終わってしまいます。夢に向かう皆様が笑顔で就職活動を乗り越えられますように。周りの方々や新しく出会う人との出会いを大切にしてください。そして、自分を信じて最後まで頑張ってください。応援しています。

就職活動で大切なことは、自分の頭で考え抜くこと、そして後悔のないよう努力をすることだと私は考えます。

出来ることは全てやろうという気持ちで「とにかく行動」をした就職活動でした。

早めのスタートを切り、将来を真剣に考える時間を沢山作りました。長い道のりではありませんでしたが、多くの業界へ足を運び、様々な価値観に触れたことで自分らしさを発見し、素敵な内定先に巡り会うことが出来ました。行員の方とお話をする中で自分の価値観との一致を感じ「ここで働きたい」と強く思った瞬間を今でも鮮明に覚えています。

正解のない就職活動では、先の見えぬ不安で、暗い闇の中

を突き進むように思う時があります。思い通りに行かないこともありましたが、そんな出来事こそ無駄にせず、次は絶対に挽回するぞ!という気持ちでノートに反省を繰り返しました。失敗も、学びに繋げることで前向きに進めるのだと思います。

いつも親身に対応して下さいましたキャリア支援部の皆様、どんな時も味方で勇気づけてくれる家族、沢山の人の支えられ、人の温かさを再認識した就職活動。

長く働き、いつまでも活躍し続ける女性になれるよう、関わった方への感謝の気持ちを忘れずに精一杯努力致します。



三井住友銀行

平成30年3月  
日本文化学科 卒業

佐々木 小春

内定

るので、大手でなければ扱うことのできない案件に弁護士士の日常業務のサポートを通して関わることができます。また、所員旅行・部活・パーティーなど人数が多くても、部署を超えてコミュニケーションをとることのできる環境が整っているところも魅力的でした。

就職活動中は周りが気になってしまおうと思いますが、自分の意志を強く持って取り組んでください。面接は第一印象が大切です!上手い出来ないことがあっても笑顔を忘れず、体調には気を付けて頑張ってください。



TMI総合法律事務所

平成30年3月  
国際コミュニケーション学科 卒業

岡部 夏帆

内定

就職活動において大切にしていたことは、ホームページやネームバリューで判断するのではなく、実際に企業に足を運ぶということです。同じ業界でも企業によってカラーがあり、自分に合う・合わないということを説明会やインターンシップを通して知ることができるからです。また、どんなに企業研究や自己分析をしても面接にたどり着くことができなければ自分を知ってもらうことができないので、SPIの対策には力を入れていました。

私の内定先の法律事務所は弁護士が約400名在籍して

就職活動は最初から最後まで順調!なんてことはありません。初めてのなのだから、うまくいなくて当たり前。就職活動のとき私を支えていたこの考え方は、私がインドネシアで半年間ボランティアをしているときに学びました。

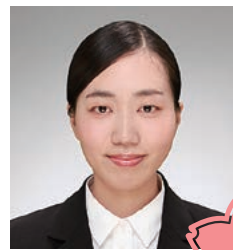
1年間休学をしてインドネシアで日本語教育に携わり、そのことがきっかけで「人材」によって「日本と世界をつなぐたい」という軸をみつけ、現在の内定先に出会うことができました。今まで様々な挑戦する機会を与えてくれた両親、そして周りの人たちに心から感謝しています。

これから就職活動をされる皆様、一番自分らしいと思え

る会社に出会い内定をもらうために私が大切にしていたポイントを2つ紹介します。

「すべては自分を知るということから」。自分のしたいことについて今まで真剣に考えたことがある人もない人も、じっくり向き合っているような方法で探ってください。もしかしたら、内定がもらえるその日までわからないかもしれませんが、考えたその時間は決して無駄にはなりません。

2つ目は誰にも負けない最高の「笑顔」です。自分の笑顔に自信が持てるようになればもう大丈夫です!自分を信じて一歩一歩前に進んでください。



日本国際協力センター

平成30年3月  
英語コミュニケーション学科 卒業

清水 柚奈

内定

キャリア支援部のサポート体制

本学のキャリア支援セミナーは、全学的に授業がない木曜日5時限目やお昼休みなど、学生の負担にならない時間帯に開催しており、参加しやすい環境を整えることで学業と就職活動の両立を図れるようにしています。多くのセミナーは1年生から参加できますので、積極的に参加して、早期から自身のキャリアプランについて考えてみましょう。

キャリア支援スケジュール(平成29年度実績)

開催月	セミナー内容
4月	・4年生対象 集団模擬面接会 ・公務員志望者向けガイダンス&相談会 ・前期就活スタートアップ講座
5月	・大学生基礎調査結果ガイダンス ・インターンシップガイダンス ・書いてみよう! インターンシップ ES対策講座 ①志望動機編
6月	・書いてみよう! インターンシップ ES対策講座 ②自己PR編 ・インターンシップ相談ブース ・筆記試験対策講座 ・好感度アップのメイク術・写真術講座 ・女性のキャリアについて~自分を知り、将来を考える~ ・就職活動に差がつく!日経新聞の読み方・業界研究講座 ・4年生対象 学内企業説明会
7月	・インターンシップ相談ブース ・筆記試験問題を解いてみよう!
9月	・アナウンサー試験対策講座 ・後期就活スタートアップ講座
10月	・公務員試験対策 個別相談会 ・面接対策基礎講座~面接について知ろう! ・内定者報告会(第1弾) ・ES・履歴書作成のポイント講座 ・外国人留学生の就職活動について ・OG/4年生による就職準備講座 ・業界・企業研究の方法 ~いい会社・悪い会社の見分け方~ ・業界研究セミナー基礎編 ・4年生対象 学内企業説明会
11月	・内定者報告会(第2弾) ・筆記試験対策講座 ・メイク・就職写真アドバイス講座 ①概要編と面接に必要な姿勢&表情編 ・メイク・就職写真アドバイス講座 ②身だしなみヘア&メイク編 ・業界研究セミナー①旅行②専門商社 ・4年生対象 学内企業説明会 ・業界研究セミナー①航空②銀行 ・航空業界志望者対象 ES等対策講座 ・面接時のマナー講座
12月	・メイクアップ講座 直前編 ・業界研究セミナー①ホテル②物流 ・外資系航空会社セミナー ・面接対策セミナー(2日間) ・学内写真撮影会
1月	・学内写真撮影会
2月	・業界研究セミナー ・事務適性検査模擬試験&対策講座 ・SPI模擬試験 ・CAB・GAB模擬試験&対策講座 ・中小・優良企業の探し方 ・職種研究講座 ・メイク実践講座 ・グループディスカッション講座 座学編&実践編

学習院女子大学の  
就職力

例年、金融業を中心に高い就職率を維持しています。また、国際系学部  
の強みを活かし、グローバル企業や運輸業界への就職実績が高いこと  
も特徴です。小規模校のため、各企業への就職者数では、大規模総合  
大学の陰に隠れてしまっていますが、実就職率ランキングでは、本学が健闘  
していることがわかります。

速報!

充実したキャリアサポートにより、  
本学の学生は社会で高い評価を  
いただいています。

2017年  
就職に  
有利な大学

1 全国位

回答者が大学への入学を決めた理由を13項目の  
中から1つ選び、「就職に有利」という理由で入学  
を決めた割合の多い順に、入学者数上位300校を  
ランキング化。

2017年  
キャビンアテンダント  
(CA)に強い大学

1 全国位

(大学通信調べ)  
CA就職者数÷(卒業生数-大学院進学者数)×100

2017年  
銀行に強い  
大学

1 全国位

(大学通信調べ)  
銀行就職者数÷(卒業生数-大学院進学者数)×100

2017年  
実就職率  
学部系統別編(国際系)

5 全国女子大位

(大学通信調べ)  
就職者数÷(卒業(修了)者数-大学院進学者数)×100

<平成29年度 業界研究セミナー 主な参加企業>

あいおいニッセイ同和損害保険、アクセンチュア、ウェスティンホテル東京、SCSK、共同印刷、近鉄エクスプレス、警視庁、国際協力銀行、JALスカイ、JTBグループ、昭和産業、新日鐵住金、新日鐵住金エンジニアリング、住商エアロシステム、住友商事グローバルメタルズ、全日本空輸、損害保険ジャパン日本興亜、TAKAMI BRIDAL、日本航空、日本出版販売、日本政策投資銀行、日本生命、野村證券、東日本旅客鉄道、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三井物産ケミカル、三越伊勢丹、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、りそな銀行 他(五十音順)



# 学習院父母会の近況報告

●学習院父母会事務局より  
 学習院女子大学のご父母(保証人)の皆様には平日頃より、学習院の学校運営にご理解と多大なるご協力をいただきまして、平成29年度の学習院父母会の運営も滞ることなく進んでおります。学習院父母会の事業運営報告等につきまして、Y a w a r a g i 学習院女子大学だより“に掲載いただけますことを感謝いたしております。

●ご父母の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。本会は皆様から頂戴する年会費で運営されております。皆様とともに、ご子女のご成長、ご活躍をお祈り申し上げます。

●各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成28年度は各校合わせて、優秀賞は団体9件、個人48件、奨励賞は団体2件、個人12件でした。

●各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成28年度は各校合わせて、優秀賞は団体9件、個人48件、奨励賞は団体2件、個人12件でした。

●各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成28年度は各校合わせて、優秀賞は団体9件、個人48件、奨励賞は団体2件、個人12件でした。

●各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成28年度は各校合わせて、優秀賞は団体9件、個人48件、奨励賞は団体2件、個人12件でした。

●各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成28年度は各校合わせて、優秀賞は団体9件、個人48件、奨励賞は団体2件、個人12件でした。

●各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。  
 ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成28年度は各校合わせて、優秀賞は団体9件、個人48件、奨励賞は団体2件、個人12件でした。

# キャリア支援部より

おり、様々な業界で活躍する卒業生が増えてきています。

## ●2018年3月卒の内定状況について

2018年卒採用スケジュールは、前年同様の3月1日広報解禁、6月1日選考解禁、10月1日正式内定日のスケジュールで行われました。

一方、これまで5日以上とされてきたインターンシップですが、1日だけの実施が認められることとなったため、実施企業が大幅に増加しました。参加者限定の説明会の開催や、インターンシップそのものが採用に直結した事例もあり、実質的な選考前倒しが危惧されました。売り手市場は継続しており、企業側の採用意欲は非常に強く、連日、メディアでの高い内定率に関する報道を受けて、学生達に焦りが見られました。

また、事務業務はAIを積極的に導入する動きが活発となり、メガバンクでは大幅に採用者数を減らす中、一般職の競争が激化する様子が窺えました。

本学の状況としては内定率は6月以降順調に伸び、1月末時点で9割を超える学生が進路を決めています。

## ●2019年3月卒の就職活動について

次年度は採用スケジュールの変更はなく、3月広報解禁、6月選考解禁がすでに決定しています。しかし、企業は今年度の経験を踏まえて、スケジュールの大幅な前倒しや選考方法の見直しを行う可能性もありますので、油断はできません。

キャリア支援部では、3月以降の活動をスムーズに始められるよう、2月の業界研究セミナーでは、昨年より多い約70社の企業の方にお越しいただき、様々な角度から業界のお話をさせていただきました。

本誌がお手元に届く頃には、すでに広報解禁を迎えており、連日、企業へのエントリーシートの提出や、説明会への参加で忙しい毎日を過ごしていることと思います。今後、履歴書が思うように書けなかったり、面接で失敗したり、様々な場面に直面すると思いますが、随時(6月迄は予約制)相談を受け付けていますので、ひとりで悩まず、まずは気軽に立ち寄りみてください。

また、進路先が確定した場合には、『進路決定届(G-Port上での登録)』を必ず提出いただく必要がありますので、ご協力をお願いします。

## 平成28年度 主要産業別就職状況

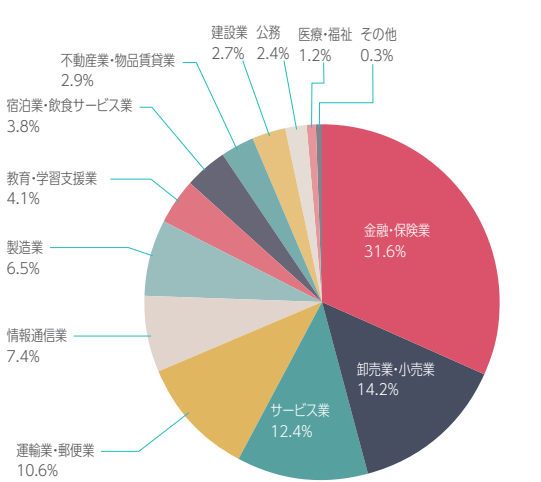
産業	企業名(カッコ内は人数、1名は省略)
金融・保険業	みずほフィナンシャルグループ(10)、三井住友銀行(8)、三菱東京UFJ銀行(5)、リソナホールディングス(5)、第一生命保険(4)、日本生命保険(4)、千葉銀行(3)、三井住友信託銀行(3)、三菱UFJ銀行ビジネス(3)、明治安田生命保険(3)、あいおいニッセイ同和損害保険(2)、足利銀行(2)、京葉銀行(2)、国際協力銀行(2)、住友生命保険(2)、損害保険ジャパン日本興亜(2)、東京シティ信用金庫(2)、日本マスタートラスト信託銀行(2)、野村證券(2)、丸二証券(2)、みずほビジネスサービス(2)、三井住友海上火災保険(2)、朝日生命保険、アフック収納サービス、SMBG日興証券、SMBGファイナンスサービス、かんぽ生命保険、クレディセゾン、興産信用金庫、埼玉県民共済生活協同組合、ジェーシービー、静岡銀行、ジャパンネット銀行、商工組合中央金庫、城北信用金庫、東海信用金庫、全国共済農業協同組合連合会、ソニー損害保険、損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険、太陽生命保険、多摩信用金庫、千葉興業銀行、東京都民銀行、東和銀行、栃木銀行、名古屋銀行、日本政策投資銀行、日本トラスティサービス信託銀行、農中ビジネスサポート、農林中央金庫、八十二銀行、三井住友海上プライマリ生命保険、三菱UFJトラストビジネス、ゆうちょ銀行、ユーシーカード、横浜信用金庫、楽天カード
卸売業・小売業	ヴァンドームヤマダ(2)、野村貿易(2)、三菱商事エネルギー(2)、青山商事、アールビー・フーズ、イオンリテール、五十鈴、イービーエム、エキップ、カナデン、かねまつ、光陽物産、三信電気、資生堂ジャパン、シャディ、住商ブランドマネジメント、住友商事マシックス、成城石井、清昌堂やました、ゼビオ、そごう・西武、大興物産、東急ハンズ、トヨタカローラ高崎、P&Gプレステージ、日立国際ビジネス、プリチストン化工品ジャパン、マリウフロントコスメックス、三井物産ケミカル、三菱食品、三菱マテリアルトレーディング、ユナイテッドアローズ、ライオン事務器、ラオックス、リョーサン
サービス業	郵船コーポリアルサービス(3)、エイチ・アイ・エス(2)、高見(2)、三菱電機ビルテクノサービス(2)、アクセンチュア、味の素コミュニケーションズ、アディール法律事務所、インテリジェンス、ANAスカイビルサービス、NECマネジメントパートナー、エン・ジャパン、奥野総合法律事務所・外国法共同事業、オン・ザ・ライン、キャブラン、キャリアデザインセンター、キャリアリンク、グッドラック・コーポレーション、クラブツーリズム、グローバルユースビュロー、サムシングホールディングス、水天宮、総合キャリアグループ、テイクアンドギヴ・ニーズ、東京損保鑑定、ニーズウェル、長谷川ホールディングス、ベンチャーバンク、三菱電機ブランドエンジニアリング、メイショム、メディカルトラスト、ヤマテ・サイン、夢テックロジー、リクルートスタッフィング、リードエグジジションジャパン
運輸業・郵便業	全日本空輸(9)、ANAエアポートサービス(5)、JALスカイ(5)、近鉄エクスプレス(2)、日本航空(2)、日本通運(2)、春秋航空日本、スカイマーク、セイノースパーエクスプレス、タイ国際航空、日本紙運輸倉庫、日本貨物鉄道、韓進インテリナショナルジャパン、東日本旅客鉄道、ファミリーコーポレーション、三菱商事ロジスティクス、ヤマト運輸
情報通信業	ANAテレマート(2)、伊藤忠テクノソリューションズ、エイベックス・グループ・ホールディングス、NTTデータマネジメントサービス、NTTドコモ、高知放送、コンピュータロ、ジェイズ・コミュニケーション、シンカーミクス、TBSテレビ、テレビ新潟放送網、トランスコスモス、日本アイビーエム・ソリューション・サービス、富士ソフト、富士通マーケティング、マイナビ、MAPPA
製造業	サマンサタバサジャパンリミテッド(2)、アルピオン、カバヤ食品、九鬼産業、サントリーホールディングス、ジェイアール東海バスセンター、JNC、JTBBランニングネットワーク、ジョンソン・エンド・ジョンソン、総合車両製作所、日精工エー・エスビー機械、俄、花園万頭、HARIO、ピーアンドエス・コーポレーション、富士通、MARK STYLER、三井ホームコンポーネント、Meiji Seikaファルマ、横浜油脂工業、ヨシダ印刷
教育・学習支援業	川口学園、國學院大学、国際医療福祉大学、ナガセ、NOVA、リンク・インタラクティブ、早稲田アカデミー
宿泊業・飲食サービス業	ウェスティンホテル東京、ザ・リッツ・カールトン大阪、スターバックスコーヒー・ジャパン、プリンスホテル、フレンドステージ(グランベルホテル)、星野リゾート、リゾートトラスト、龍名館
不動産業・物品賃貸業	住友不動産販売(2)、JA三井リース、シービーアールイー、スターツコーポレーション、住商建物、積和不動産関東、三井住友トラスト不動産、三菱UFJ不動産販売、ユニソールホールディングス
建設業	旭化成ホームズ、一条工務店、鹿島建設、積水ハウス、大東建設、丹靑社、松家ホールディングス
公務	足利市、群馬県警察本部、警視庁、埼玉県教育委員会、千葉県農林部、千葉県人事委員会、東京都人事委員会、東大和市
医療・福祉	IMSグループ、日本ステリ

平成28年度 (2016年度) 就職状況 (2016年9月・2017年3月卒業生)	卒業決定者	369人
	就職希望者	348人
	就職希望率	94.3%
	就職内定者	339人
	就職内定率	97.4%

## 就職先上位10社

順位	企業名	人数
1	(株)みずほフィナンシャルグループ	10
2	全日本空輸(株)	9
3	(株)三井住友銀行	8
4	(株)三菱東京UFJ銀行	5
5	(株)JALスカイ	5
6	(株)リソナホールディングス	5
7	ANAエアポートサービス(株)	5
8	第一生命保険(株)	4
9	日本生命保険(相)	4
10	三井住友信託銀行(株)	3

## 平成28年度 学習院女子大学業種別就職状況-主な企業-



## 学習院女子大学 父母会会員の皆様へ

学習院父母会会長 小堀正晴

「ご父母の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。

学習院父母会は、学習院全体の経営、教育に参画し支援する組織であり、その目的に従ってさまざまな活動をしていきます。これは他の学校法人には見られない特徴です。本会は、園児、児童、生徒、学生が学習院において充実した学校生活を送れるように多岐にわたって支援することを第一の役割であると考えております。それは、学習院で学ぶ子ども達が社会人となり、明日の日本、世界の一翼を担う人材として成長することを願っているからです。

本会は皆様から頂戴する年会費で運営されております。皆様とともに、ご子女のご成長、ご活躍をお祈り申し上げます。

## ●父母会の主要事業

(1) 父母会奨学金制度 (平成13年度創設)

学習院に在学する学生、生徒等が父母保証人の死亡などに起因し、家計が激変したことにより、学費の支弁が困難と認められる勉学熱心な者に対し、選考のうえ、年15名以内、年額授業料・維持費(高等科以下の名称)・施設設備費(大学及び女子大学の名称)相当額(100万円限度)を学習院在学中1年度に限り給付するものです。平成29年度は7名(大学4名、女子大学2名、女子高等科1名)の学生・生徒等へ給付いたしました。

(2) 父母会課外活動等助成金制度 (平成13年度創設)

現代は単に学問だけでなく、スポーツ・文化などを含めた広く大きな「人格形成」が教育の場に求められています。そこで父母会は、大学、女子大学、男女中・高等科及び初等科の運動部・文化部等の課外活動に対し積極的に助成しております。

●各都道府県・各クラブの備用品用具等へ助成する一般助成金について、平成29年度は各学校合計76件でした。

●父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成28年度は各校合わせて、優秀賞は団体9件、個人48件、奨励賞は団体2件、個人12件でした。

## ●父母会の近況報告

(1) 地方における「地震災害による被災者父母保証人」へのお見舞い等

新潟県中越地震(平成16年)、福岡県西方沖地震(平成17年)、新潟県中越沖地震(平成19年)、岩手・宮城内陸地震(平成20年)、それぞれ、お見舞金を贈呈しました。

平成23年3月11日、東北関東東地域に発生した甚大な災害に当たって「学習院東日本大震災義援金」へ100万円を募金しました。

また、東日本大震災罹災学生(大学及び女子大学に申請・認定の学生)に対して生活支援金(平成23年度の制限措置)を支給しました。

(2) 「オール学習院の集い」への協力

恒例の「オール学習院の集い」に対して、法人へ寄付をすると共に、常任幹事の方々には当日の運営にご協力いただき、「共催」の役目を務めております。

(3) 大型物件の寄贈及び寄付

●百周年記念会館小講堂の椅子の老朽化に伴い200脚寄贈(平成20年)

●学習院女子大学(ヘグランドピアノ)(スライムウェイC227)の寄贈(平成21年)

●幼稚園へAED及び保健室へAED訓練用人形の寄贈(平成21年)

●学習院女子中・高等科テニス・バレーコート人工芝化改修工事費の寄付(平成22年)

地デジ対応テレビ等買い替えの寄付 (平成22年)

●幼稚園(ステンレス製オリジナル2連登り棒を寄贈(平成23年))

●各学校(大学)幼稚園へ災害時整備計画に基づく備蓄品等を寄贈(平成24年)(女子大学用備蓄品として、アルファ米2100食及びサブバイバルパン2016缶を寄贈)

●学習院大学へ西5号館1階「学生ホール」内設置の椅子188席を寄贈(平成26年)

●学習院大学へ輔仁会館前噴水広場用屋外チェア16脚を寄贈(平成27年)

●初等科本館1階「図書室」内設置の机9台、椅子36脚、及び材料台4台を寄贈(平成29年)

●学習院女子中・高等科総合体育館の綴帳一式を寄贈(平成29年)

●学習院中・高等科第2テニスコート人工芝化(オムニコート)工事費用の寄付(平成29年)

●幼稚園へAED及び保健室へAED訓練用人形の寄贈(平成21年)

●学習院女子中・高等科テニス・バレーコート人工芝化改修工事費の寄付(平成22年)

●父母会本部事務局は目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館2階にごさいます。ご用の方は「遠慮なく、ご連絡下さい」。